

增補考古畫譜

卷六





增補考古畫譜卷六

志部

承安五節圖

或云五節淵醉圖

一卷

倭錦云隆信五節淵醉圖

如慶粉本末記云承安五節卷物ヲ屏風トス元和六年十月吉日禁中様ニ御座候ヲ申出寫申也住吉内記

貫雄曰此繪應仁年間屏風ト云々雲樹之類足らざる處彈正廣周ト云々を補ふといふ

補真賴曰承安五節圖一卷摹本博物館ニあり

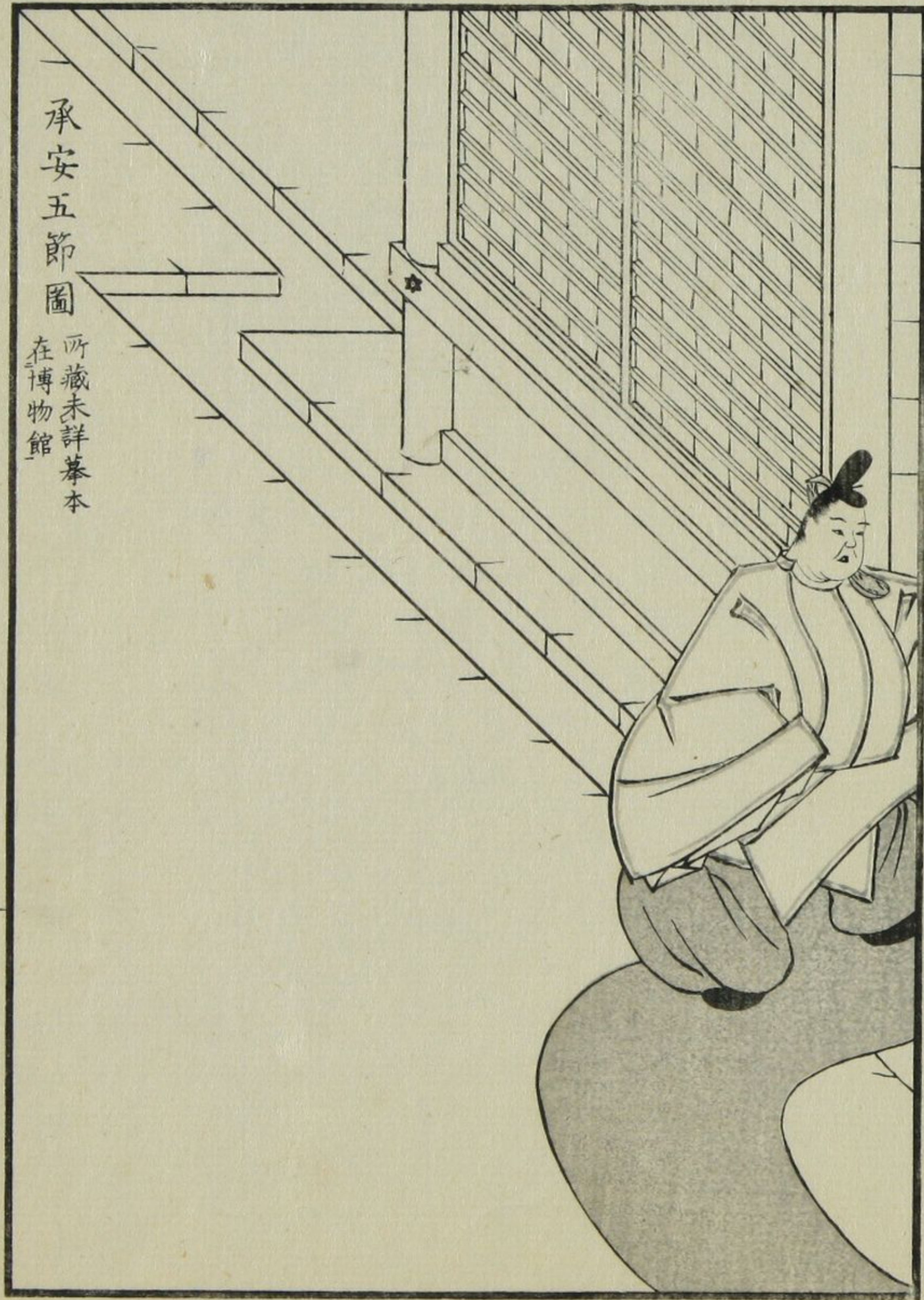
黒川春村原稿

古川躬行纂輯

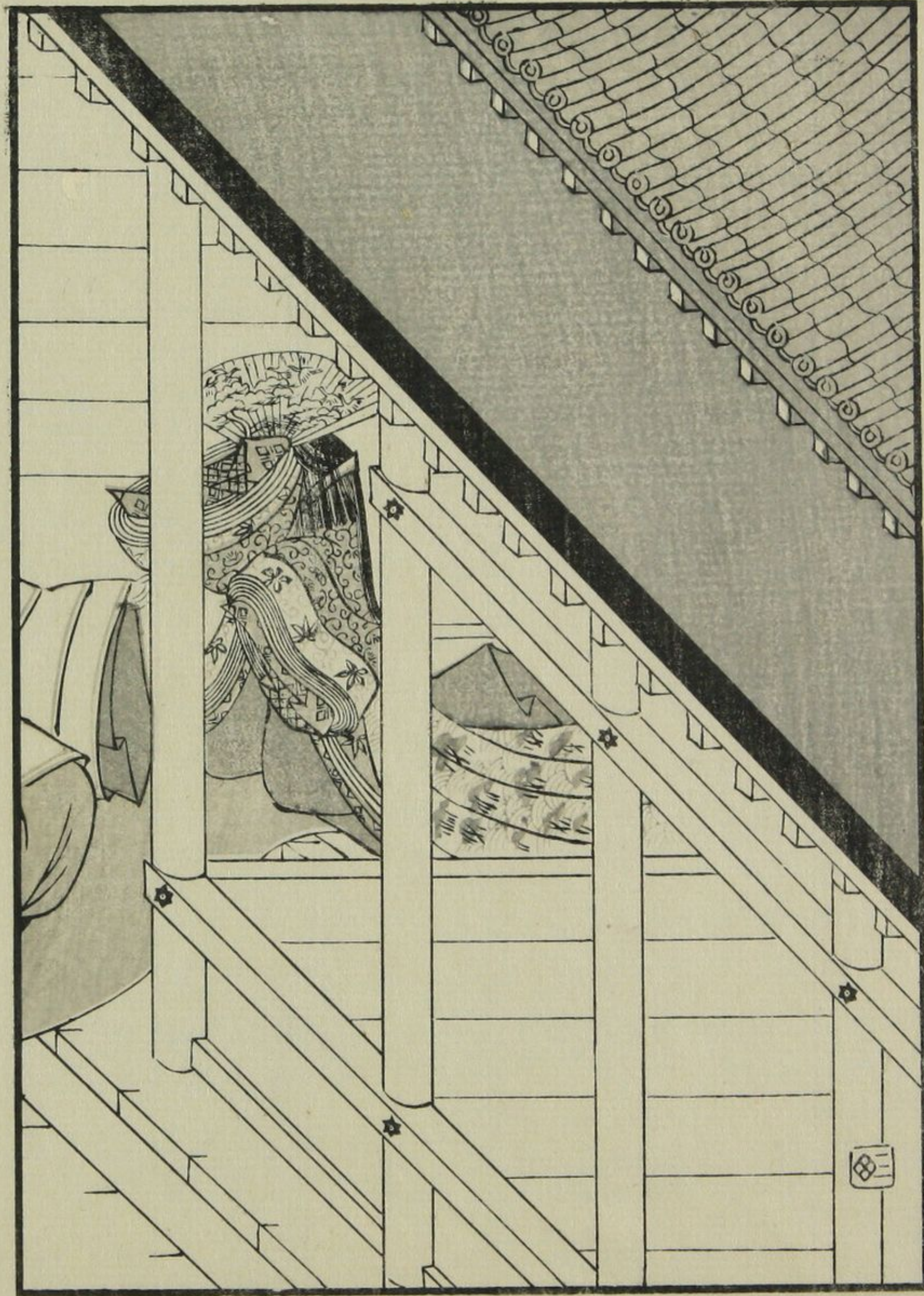
黒川真賴増補







曾甫考古畫譜卷六



增補古今圖書集成卷六



詞書あり筆者不詳。卷尾云右屏風一双分と見  
正より

同 一卷

皇朝名畫拾彙云藤原邦隆土佐權守經隆男或云  
隆兼男然年代懸隔恐謬也豐前守從五位下工畫嘗畫五  
節圖云

土佐系圖云豐前守邦隆号土佐男畫五節圖十卷在  
官庫

倭錦云土佐邦隆五節之圖

補元幹曰此圖五節ノ原本ナルベシ今傳ハラ  
ズ可惜今日所傳ハ原二卷歟

補春村曰一卷か

貫雄曰此卷承安五節の別本ふして一卷もし

ハ二卷とせり系圖ふ十卷とあるハ必誤寫か  
るべし

躬行曰邦隆ハ中務少輔隆親の二男ふして經  
隆の弟あるハ尊卑分脉ふ炳焉あるを系圖ふ  
かど經隆の男とあるみや

補同

補本朝畫圖品目云承安五節圖一卷光長所寫以  
繪卷光信屏風一坐寫之

補真賴曰光長の畫がけるところの承安五節  
圖のありけりことハ此文ふ依り見るべし此  
の圖を光信が寫せるがあることハ次下ふ示  
る

承安五節圖屏風



土佐系圖云。光信右近將監刑下部畫五節之圖御屏風在官庫

補古畫目錄云。承安五節會圖卷軸。京都御厨子所預高階若狹守宗直家藏セリ。摹本ヲ轉寫シテ菅原洞齋家ニアリ。寛政九年六月廿二日觀

好古小録云。光長所寫ノ畫卷ヲ以テ光信屏風一座ニ寫シテ畫卷ハ不傳。今ノ畫卷ハ御厨子所預宗直朝臣屏風ノ摸本ヲ以テ畫卷トナスモノ也

貫雄曰。小録ふいふ所ノ光長ハ隆信朝臣の誤矣。宇喜田可為曰。光信所畫六曲屏風二帖。今尾州犬山ふあ

四季御屏風

江家次第祈年祭條云。入御石灰壇。藏人頭若五位藏人。

於四季御屏風北妻献御笏

侍中郡要卷十云。石灰壇御屏風一帖。四季立替云

云近代一帖禁腋秘抄中殿云。一間ノ母屋ノ下ニ四季御屏風

一帖繪ヲ端立タリ。ソノ内ニ配膳ノ圓座アリ

四天御屏風

雲圖抄御齋會載之

補紫宸殿賢聖御障子の裏唐花の繪

補禁秘抄上卷云。南殿云云賢聖障子云云此障子裏方書唐華

補同御帳間獅子狛犬御戸

補同書云。南殿云云御帳間戸畫師子狛犬

補同御帳間負書龜御障子

補同御帳間負書龜御障子



補同書云南殿云云御帳間戸畫師子狛犬上畫負書之龜本文心障子戸三ツ也  
新年中行事繪

本朝畫圖品目載之

躬行曰田中訥言曾て當世年中行事五卷を畫く品目所載是をいへるら

承元御鞠圖 一卷

畫圖品目載之

補白山權現本尊像

補倭錦云土佐經隆白山權現本尊

補新羅大明神御影 一幀

補所藏者不詳繪山王院大師摹本博物館ふあり

補真頼曰右手ふ巻物を持左手ふ杖をもち倚

群書類從第三百五十三承元御鞠記あ

子小か、さる像ふり裏書云天文四乙未年九月十九日堯雲坊榮順とあり

補釋迦如来像

補畫工便覽卷二云源頼員通儀大夫好工善佛像常拜佛員昔時夢一僧拜員曰汝前生善敬伏佛自今以後圖釋迦多寶之二尊將結縁之員覺而隨喜現在二軸見披之夢中二像也員感涙頻濡袖供恭禮拜曰新也是後往々書二像益現奇瑞後南都結庵居留

補釋迦三尊像

補人車記云仁安元年九月三日御懺法之次被供每日御佛經略中二幅釋迦三尊一鋪錦信範奉圖云



補同

補同

補同書云。土佐邦隆釋迦文珠普賢

補同

補同書云。巨勢源慶釋迦文珠普賢

補同

補同書云。巨勢行忠釋迦三尊

補

釋迦六祖像

補箱書ニ云行基菩薩筆

補真賴曰。絹本小々中央小釋迦左右ニ六祖の像あり其さま甚古雅なり

正觀音像 一幀

東鑑云。壽永三年正月廿三日下総權守藤原爲久

依召自京都參向。是豐前守爲遠三男。無雙圖繪之達者

同書云。同年四月十八日依殊御願。仰下下總權守爲久。被奉圖正觀音像。爲久着束帶役之。潔齋已滿百日。今日奉始之。云云武衛亦御精進。讀誦觀音品云云

補同

補山槐記云。治承四年十二月廿二日。今日故女房遠忌也。仍向東山堂。修佛事奉圖正觀音像。摺寫法花經。又寫四卷經。第一予。第二少將兼宗。第三侍徒忠季。第四安房守定長。有猶子義所奉書也。一說沒後當十三年之時。殊善云云。仍致此勤也

十一面觀音像 一鋪

翻譯名義集云。婆藪才等陀羅尼經云

補同



不時婆娑於地獄出將  
九十二億罪人業請世  
界亦亦然云々婆娑于天  
數者言意又婆娑廣  
通高妙斷知剛具悲心

地補考古書評卷六

在山水中脇侍吉祥天女波藪僊人土佐權守經隆  
筆杉浦左衛門尉所藏

補十一面觀音像 一幅

補東寺寶翰古器目錄云十一面觀音像永德二年  
修覆一幅

補準眠觀音像

補倭錦云秦致真準眠尊

補真賴曰準眠尊ハそのさ生千手觀音ふ似  
左右ともふ十八臂なり千手ハ四十臂あり  
いふ

將軍地藏像 一鋪

倭錦云訖磨慧日房將軍地藏 展閱目録同

補十六躰觀音像 一幅

補山槐記云文治元年九月一日午刻許參觀音寺  
堂依故殿御忌日也奉圖十六躰尊像於一鋪云云  
淨土瑞相廿五菩薩像

東鑑云元曆二年八月廿二日為久從京都亦參着  
為新御堂畫圖也

同書云文治元年十月十一日御堂佛後壁畫終彩  
色之功所奉圖淨土瑞相并廿五菩薩像也二品監  
臨給之處圖淨土之所有三日月此月者以已影隱  
已影云云不叶本說之由被仰之間畫工不能改之  
則削

躬行曰此寺ハ勝長壽院南御堂と稱之新編鎌  
倉志二卷云大御堂谷ハ文覺屋敷の東鄰歌橋ノ  
南向ナリ阿弥陀山トモ云賴朝卿最初ノ建立



勝長壽院ノ舊跡也勝長壽院ヲ南御堂トモ大御堂トモ稱也トあり

勝長壽院ノ舊跡也勝長壽院ヲ南御堂トモ大御堂トモ稱也トあり

補四菩薩像

補長秋記云保延元年六月廿日故女御殿子基周忌御法事也仍參仁和寺略中下官申云謂四親近何候哉示給云世俗所云觀音勢至地藏龍樹也云云件四菩薩并柱繪印相可召進繪佛師知順令圖可下給由令申畢廿一日召繪佛師知順可參仁和寺之由仰含了御佛印相沙汰也

補

十齋佛菩薩及彌勒文殊梵天帝釋像

一幀

補本朝文粹卷十三云奮然上人入唐時為母修善願文慶保胤佛子奮然至心合掌云云奉圖十齋佛菩薩及彌勒文殊梵天帝釋像一幀云云

十二時不動像

朝野群載一卷云十二時不動尊銘云羊僧寄形來門託跡台嶠聊携顯密之學只發慙愧之心爰適屬案牘之餘暇方運隨分之意巧每迎晝夜之尅限必十二之神將時刻不違定出形像重案指南之風流合向隨時之方首今有畫圖之士獨步丹青之道見羊僧之拙藝成龍虎之感歎褒絕世之美奉圖斯尊容答貺之思欲罷不能歟干時嘉保二年二月十二日十二時作出僧日覺尊像圖者僧善範銘文作者惟宗孝言筆者藤原顯仲

十六羅漢像

名畫拾彙云守敏居京師西寺嘗畫十六應真圖今東武湯葛圓滿院藏覺慶摸幅

頭仲校四位下右兵衛佐中納言藤原仲男

曾南考古畫譜卷二



北朝書畫譜卷六

同 十六幅

倭錦云。巨勢有家十六羅漢十六幅。紀州大川什物

同 殘闕

同書云。託磨為久十六羅漢殘缺

同

託磨澄賀筆

同 二鋪

倭錦云。託磨勝賀十六羅漢

同 十六鋪

同書云。託磨榮賀十六羅漢。銘々印有肥前佐賀安

國寺什物

同 一鋪

補倭錦云。託磨榮賀墨畫十六羅漢

本朝畫史云。榮賀觀其佛像。頗似李龍眠。顏輝。先是未看此。躰蓋變倭畫之古風。而新學中華之筆法者。多始於此乎。

躬行按ふ。託磨ハ肥後國の地名ふや。まゝ琢磨宅磨宅間等ふ作。更ふいづき。是あるを志らば。姑く原本ふ隨ひく録之。

同 一鋪

補倭錦云。筆者不定十六羅漢。下ニ聖武帝聖弘法

大師和州橘寺藏

展覧目錄橘寺云。無名氏十六羅漢圖一幅。下畫聖

武帝。聖德太子。及弘法大師。黑衣僧。

同

本朝畫史云。巨勢行忠所畫釋迦十六羅漢像。在和

三輪寺并中坊今廢之。所在と云くは



補同  
州三輪寺中ノ坊筆力絶妙也  
倭錦云巨勢行忠十六羅漢和州三輪寺中坊什物

同

名畫拾彙云東福寺舊藏北殿司畫羅漢像佚亡二  
幀後陽成帝執筆補足之殆逼本真皆是出于天  
資穎悟也

補同

補百練鈔卷四云元延元年丁亥二月十一日入唐  
僧奮然歸朝隨身第三傳釋迦像十六羅漢繪像并  
摺本一切經到蓮臺寺大臣公卿已下立車奉拜之  
補真賴曰此の十六羅漢の像の繪ハ支那人の  
畫のけるものかきと好古の便とせんがため  
ふこゝふ掲ぐ

補同

補東鑑卷十六云正治二年七月六日庚申尼御臺  
所於京都被圖十六羅漢像佐々木左衛門尉定綱  
調進之今日到來御拜見之後令奉送葉上房寺給  
云云同十五日己巳於金剛壽福寺新圖十六羅漢  
被遂開眼供養導師當寺長老葉上房律師榮西也  
尼御臺所爲御聽聞有叅堂云云

十六善神像

倭錦云土佐邦隆十六善神

同

一幀  
同書云春日行秀十六善神

十二天像

展開目錄廣隆寺條云巨勢金岡筆十二天但非金岡琢  
磨法眼欵

留南考古書並目錄六

十



此補  
武田信綱所畫  
每幅有  
信綱印

同

本朝畫史云律師康保住醍醐水本報恩院畫十二天像所用設色之具遠求於漢土云

同

十二鋪

甲斐八代郡上野村藥王寺藏十二天逍遙軒入道武田信綱所畫

本朝畫史云武田逍遙軒信玄之弟也性好繪善寫信玄之畫像又畫十王及十二天像在于紀州高野山

補同

春記云長曆四年十月十九日關白命云略中真言院五大尊十二天像等經年序朽換仍以丹後講師政圓令圖繪以其功可令重任之由可仰上卿者仍奏

補同

此旨了

補倭錦云宅磨良賀十二天太秦什物

同

補真賴曰太秦ハ太秦の廣隆寺也

真賴曰かノ部高野山十二天扉繪の條見合之べし

本朝畫史云託磨爲遠姓藤原任豐後守仕近衛院于時有御願造高野山學皇院而令爲遠畫其堂壁云云晚年号勝智剃髮叙法師見于學鏝上人行狀倭錦云宅磨爲遠高野山十二天扉繪

貫雄曰此扉近時賈人買得齋來於江戸是即大和圖會所載宅磨筆高野山舍利塔之扉也又曰余登野山至奥院看輪藏其柱六本每一本有二天是即爲遠所畫今尚存矣

此補  
武田信綱所畫  
每幅有  
信綱印

士



補 十二天像 十二幅

補 東寺寶翰古器目錄云十二天御修法ノ本尊大破永仁四年ノ箱ニ入ル十二幅

補 四天王像

補 畫工便覽卷一云藤原内膳号長岡大臣真楯子母從五品安部常丸女好丹青圖不空羅索并四天王像納所々々

補 十五童子像

補 山槐記云治承二年六月廿八日中宮御呵梨底母供雜夷内大十五童子供雜夷女房被已上二檀大僧正禎喜寺務東獻支度件二御持僧也仍在彼相率小佛師等於大僧正檀所檀所也三條西高倉東今日之中奉圖繪之頼源兼日進支度御衣絹以

下用途爲二品沙汰被下行夏受領功之内也

補 十羅刹女像

補 舊函ふ記して云十羅刹女古代真ノ大福寺常什蓋裏の記ふ云此一軸者濱名長者之姫抱難病因宿願納焉法名妙相

補 本朝畫圖品目云十羅刹女之圖畫者信實遠州濱名大福寺什

補 真頼曰摹本博物館あり原本ハ絹地ふく十羅刹女を日本の官女体ふ畫りけり殊勝のも此あり

補 同

補 玉海云養和二年正月十二日云云此日舊臣女房等奉供養結縁經講師澄憲僧都略中普賢菩薩并



増補新編古書目録卷六

十羅刹女半一幅 女房等手自所奉圖也

浄土曼陀羅 一鋪

倭錦云、巨勢金岡浄土曼荼羅

躬行曰、この曼荼羅、方三尺許、杉浦左衛門尉藏  
あり

同 一鋪

同筆堀内藏頭所藏

同 一鋪

倭錦云、土佐吉光浄土大曼荼羅三縁山什物

聖皇曼陀羅

同書云、南都堯尊聖皇曼荼羅岡屋関白御撰法隆  
寺藏

道の幸法隆寺條云、聖皇曼陀羅とて、欽明天皇、用明天

皇、聖武天皇、聖德太子、間人皇女、膳妃、廿五王子、聖  
寶、勝万、惠思、空海、日羅、蕪我妹子、調使、麻呂、あとい  
幅、ふるがきたるあす、ふるびくいと幽るなり、い  
はのよれものみやとあのをいさふ、委しくとひ  
ぬき、バ建長此項、寺僧頭真發願して、岡屋関白殿  
下、みうたへまうしけき、バ古きよの服色を考へ  
給ひ、南都の畫師堯尊、み仰てかゝせらき、其賞み  
法橋、み叙せらき、證空上人を囑し、導師として  
供養とげ給ひしとぞ

補真頼曰、聖皇曼陀羅一幀、摹本博物館ふあり、  
原本ハ絹本、みう彩色繪あり、幅傍み記して云、  
法隆寺什物、原本絹、名札皆後世の書、みて張り  
たるものあり、面相いづきも書直しあり、彩色



補十界曼陀羅

直し多し

補十界曼陀羅

補圖畫一覽上卷云。畫圖品目云。光明寺十界曼茶

羅畫者慶恩法眼本朝畫圖品目亦此を必同し

聖德太子繪傳一卷

大原寂念書畫一筆故冷泉為恭藏。今不知所在小卷也

躬行曰。寂念俗稱為業著大鏡三卷。丹波守藤原

為忠男弟賴業寂然為經寂超亦為僧。共隱大原。世稱

三寂

同守屋合戰繪

住吉法眼如慶筆

補聖德太子軍一卷

補大和國信貴山朝護孫子寺藏

補真賴曰。此の繪筆者ハ寺傳ふいふ土佐刑部

といへる按をるふ土佐刑部とハ土佐刑部大

輔光信をいふ歟然まとも此の繪光信の繪と

ハ之を以て見ゆ

補神功皇后緣起

補京都將軍家譜上卷云。永享五年四月廿一日將

軍家親筆應神天皇繪緣起詞三卷神功皇后二卷

以被寄進於河内國譽田宮

補古畫類聚目錄云。神功皇后緣起繪譽田八幡社

藏

補古畫目錄云。神功皇后緣起河内國譽田八幡社

藏



北補考古畫譜卷六

補真頼曰此の繪縁起詞書ハ普光院殿畫工ハ土佐光信といへり志あるを倭錦ふハ廣周といへりいほまゝ是あらんハノ部八幡宮縁起の條見合をべし

承久軍繪 三卷

補本朝畫圖品目云承久軍之繪畫工姓名不傳

補古畫目錄云承久記詞計殘ル

畫圖品類云畫工姓名未詳

躬行曰此繪三卷とあるハ普通の承久記ハ後人畫を添しものあるへし續群書類從第五百七十三承久兵亂記二卷あり

承久鞠繪 一卷

補本朝畫圖品目云承久三年頼實公亭鞠圖

補古畫目錄云承久三年頼實鞠繪詞一卷

國朝書目云承久三年頼實公亭鞠繪一卷 畫圖品目同之

蹴鞠圖 一卷

畫工姓名不傳無詞也 善畫也

新名所繪 一卷

倭錦云土佐隆相新名所圖卷

補古畫類聚目錄云新名所

補古畫目錄云新名所一卷住吉内記繪本

補真頼曰新名所繪ハ二卷のハのあり一卷ハ

歌一卷ハ繪あり

時代不同歌合 二卷

補本朝畫圖品目云時代不同歌合二卷畫隆信

倭錦云隆信時代不同歌合詞後鳥羽院室町家藏

曾補考古畫譜卷六



新編  
源氏物語  
卷六

時代不同歌合

博物館藏

六十一番

左

源朝臣

あさしらふ乃をのそあつらふのふれこ  
あもわてなまら人のこゝろさ



右

一字紀伴

たぐもをよほしうらふ秋風ふ  
こねくちけいふのなまら



曾、浦考、古畫譜卷六



法眼如慶模本奥書云。時代不同歌合隆信筆。歌後鳥羽帝以古今等三代集作者為左方以後拾遺已來五代勅撰作者為右方二まきの内。正保四年四月廿五日土佐内記。室町殿御藏其後未詳

同

二卷

後鳥羽帝書畫宸翰

補真頼曰。摹本博物館ふあり。人物彩色をまど剥落せし衣紋尋常ふあらば歌ハ一番より五十番ふ至まり巻尾云。後鳥羽院御宸筆。傳來雲上御文庫とあり

同

殘缺

倭錦云。隆信時代不同殘缺歌後京極殿

同

刑部大輔光長無歌唯注作者名

貫雄曰。作者姓名。大納言為家卿筆傍ふ假字をさししり

躬行按ふ。為家卿建治元年五月一日七十九歳薨き。承安の光長ふハ後輩ふして。時代かふハふたし

同

一帖

權大納言為家卿書畫一筆

補倭錦云。二條為家卿時代不同歌合書畫

躬行曰。白描紙本明治九年官購之。置於博物館。補真頼曰。為家卿書畫一筆の時代不同歌一卷原本及摹本博物館ふあり。摹本奥書云。此一巻者為家卿書畫之由申傳薩州侯所持。嘉永六癸



補前田利嗣藏畫工不詳詞書後圓融院宸翰

丑年春三月摸之畢雅信誌と見正より繪ハ白描  
不て歌ハ七十五番まであり

同 殘缺

御子左大納言為氏卿書畫一筆

同 二卷

畫工姓名未詳歌 後圓融帝宸翰

玉露叢寛文十一年八月十三日云戸田采女正隱居ノ御禮ト

シテ御脇指行光五代金御掛物畫無準之自ヲ公方家

へ獻上御臺所へハ時代不同歌合卷二詞書 後圓

融院宸筆繪土ヲ進上ス

補同 一卷

補前田利嗣藏畫工不詳詞書後圓融院宸翰

補真頼曰此の繪甚鈍筆ふして決して畫工の

忍びきたるものみあらま但シ衣紋ふめづら  
あつものあり恐らくハ後圓融天皇の書畫御  
一筆のみ此ならん

補同 殘缺

補古畫類聚目錄云時代不同歌合筆者不詳人磨

西行延喜帝

補同

補古繪目錄云時代不同歌合圖二卷為隆筆父為信

京都土佐守家繪本

補真頼曰古畫類聚目錄ふ載るものと此の

繪と同物なるべきら本書を見ざまハ今さど

めがさし

同新圖 三卷



北神宮書譜卷六

住吉廣行畫松山少將定國朝臣撰

同 三卷

畫工同上白川少將定信朝臣撰

釋教歌仙

一名詞林  
言葉集

一卷

倭錦云長隆詞林言葉集詞為家卿

博物館摹本卷尾云右一卷歌者為家卿筆畫邦隆也

躬行曰長隆ハ文永頃の人為家卿建治元年薨

時代合へり邦隆ハ中務少輔隆親の二男安元

頃の人おきハ時世甚古し

職人盡歌合

七十一番

三卷

補本朝畫圖品目云職人盡歌合三卷畫土佐光信書東坊城和長卿七十一番歌合即此

好古小録云畫光信詞東坊城和長卿淡彩ナレド

モ其圖ハ委シ印行ノ本ハ縮本ナリ此歌合作者

烏丸光廣卿ト云説アレドモ和長卿ノ真蹟傳ハ

リタレバ俗説ナル事知ルヘシ

官藏粉本奥書云右繪之詞逍遙叟花翰也奇觀并

可翫焉而已寛永第九八月上澣特進押

躬行曰實隆公天文六年十月三日薨八十和長

卿亨祿二年十二月廿日七十薨元長卿大永七

年八月十七日七十二薨ぜるともみ永正の光

信みハ同時代のかたゝゝありひとり光廣卿

ハ寛永十五年薨し時世後きたるのミあらば

己み寛永九年の奥書あま論をまゝに但群

書類從第五百三十七十一番職人盡を収む圖も



古今言言卷六

職人盡歌合

所藏不詳摹本  
在博物館

志

心  
ひ  
山田  
乃



く

日  
か



曾甫考古書譜卷六



補真頼曰七十一番職人歌合摹本三卷博物館  
みあり

まゝ可也  
補真頼曰七十一番職人歌合摹本三卷博物館  
みあり

同

殘缺

補本朝畫圖品目云職人盡歌合異本書土佐經隆  
詞 後光嚴帝

補徵古圖錄云職人盡歌合詞 後光嚴院土佐經  
隆筆五番左みこきこみこれくちをよせてぞ孫

まほしきつゝももらもうちまきつゝ  
類聚目錄云中務大輔經隆筆

畫圖品類云繪土佐經隆歌 後光嚴帝宸翰  
補圖書一覽上卷云此缺本尾張ニテ加藤正武ノ  
藏本ヲ見ル而已ナリ五番左みこ君とまき口を

ふせてぞ見まほしき云云

躬行按ふ徵古圖錄所載の職人盡亦繪土佐經  
隆歌 後光嚴帝宸翰とせり然きとも經隆ハ

中務少輔隆親の男承安頃の人かまひ 後光  
嚴帝み先たてる事殆二百年み近ありぬべく

時代餘りみ懸隔せり  
鎌倉職人 一卷  
畫卅二番

同

補本朝畫圖品目云職人盡歌合異本書住吉行廣  
書為重卿

畫圖品類云畫土佐守行廣書二條為重卿  
好古小録云鎌倉職人歌合繪ナキモノ固ヨリ判  
詞モ別ナリ  
躬行曰行廣應永中の人為重卿延文頃の人か

繪圖考古畫譜卷六

廿一



古今圖書集成  
博物彙編  
藝術典  
三百六十五卷  
畫譜

同  
きハ、聊先輩あらん、但群書類從第五百二冊二  
番職人盡あり、無畫  
勸進聖職人  
歌合十七番

補 本朝畫圖品目云、勸進聖職人歌合天文六年已  
往ノモノ也、續撰吟和歌集ノ歌三首アリ

補 倭錦云、土佐光信職人歌合詞甘露寺元長卿  
貫雄曰、此歌合光信七十一番職人盡の書續ふ

し、歌親長卿ふあらば元長卿也、是住吉家説  
ふ

補 真頼曰、勸進聖職人歌合、摹本一卷、博物館ふ  
あり、表紙ふ記して云、享保十四酉年閏九月津

輕土佐守より來ると見返よりをしめふ千秋

同  
萬歳法師あまをるふ勸進聖をるけり  
東北院  
職人盡 一卷

補 占畫目錄云、建保二年職人歌合繪

好古小録云、建保二年東北院職人歌合一卷

類聚目錄云、建保二年職人歌合、同東北院職人歌

合、異本

元幹曰、十番十二番廿番の三種あり、十番のも  
のハ繪もろとも甚劣きり、廿番のハ畫品殊勝  
ふして、十番のよても圖小あり

躬行按ふ、東北院ハ拾芥抄ふ、一條南京極東、上  
東門院御所、元法成寺内、東北角也云云、或云近

衛北、京極東、治曆中御堂、関白建之  
鶴岡放生會職  
人盡十二番 一卷

曾甫考古畫譜卷六



補元稹曰鶴岡放生  
會職人歌合圖品  
目ふくまじ載せさ  
らば画を見らる  
尋ぬべし

補元稹曰鶴岡放生  
會職人歌合圖品  
目ふくまじ載せさ  
らば画を見らる  
尋ぬべし

補本朝畫圖品目云鶴岡放生會職人畫歌合一卷  
畫圖品目載之  
題月戀群書類從第五百二是を成さむきども繪  
かし

同

類聚目錄云大納言光廣卿撰職人歌合繪

補真賴曰番數ハ十八番あり板本あり

補同 一紙

補圖畫一覽上卷云後鳥羽院書畫御同筆

補同

補倭錦云後水尾院御書畫職人歌合之圖

補新三十六歌仙繪

補狩野守信畫博物館藏

補真賴曰後鳥羽天皇よりはしめて西行法師  
ふ至了歌ハ堂上各一首つゝこまをかけり絹  
本ふく二帖ふふとてふり繪ふハ一枚ごとふ  
名印あり

補釋教三十六人歌仙圖 一卷

補所藏者不詳畫工不詳摹本一卷博物館ふあり

補真賴曰卷首云釋教卅六人歌仙圖勸修寺僧

正榮海撰とあり序ハ片假名もて志了し歌ハ

釋教歌仙ふ同くして平假名もて記せり達磨

和尚聖德太子を始として妙惠上人ふ至る

補詞林言葉集

補倭錦云長隆詞林言葉集詞爲家卿

尚齒會繪

補真賴曰詞林言葉  
集ハ一名を叙教哥  
仙ともいへり叙教  
哥仙の條見あはを  
べし

曾補考古畫譜卷六



中原文安元年三月三日

中原康富記文安元年三月三日云。參伏見殿候御談書。次安和二年粟田左大臣在申沙汰之尚齒會御繪一卷四條中納言隆盛卿被取出彼詩可讀申由被仰下本也。被借召云云即於御前讀之。序營三品御作也。尚齒會之人數七人也。又聽衆十餘人作詩者也。大明經博士十市有象為人數。明經之輩相交紀傳之儒林作文之先蹤也。六位史二人同相加之作詩了。彼一卷之内。慈惠大師御詩兩三篇在之。彼垣下作者内六位外記拜任之輩兩人在之。其時者未任外記後日被任外記了。  
補古畫目錄云。尚齒會一卷摹本近藤十藏藏古今著聞集四卷云。尚齒會ハ唐の會昌五年三月廿一日。白樂天履道坊ふし。始行ひ給ひける。我

朝ふハ貞觀十九年三月十八日。大納言年名卿。小野山莊ふてはしめて行をきけり。又安和二年三月十三日。大納言在衡卿。粟田山莊ふと。かこあをきけり。其後天承元年三月廿二日。大納言宗忠卿。白河山莊ふして行をきけり。七叟筭。三善為康八年。三前左衛門佐藤原基俊七十。前日向守中原廣俊七十。亭主七十。式部大輔藤原敦光朝臣六十。右大辨寬光六十。式部少輔菅原時登六十。此うち基俊ハ病ふよ。て。詩をりをかくりけり。時登序をバ書さ。りけり。垣下ふ中納言師時已下侍けり。詩披講已前ふ朗詠。少從樂天三年の句をとあへ。四五反ふかよぶ。右大辨式部大輔を詠じける。又岸風論力の句。蓬鬢高山の句。醉對花の句等。再三詠



補真頼曰尚齒會  
圖或八宝莊嚴院  
尚齒會繪詞とも  
いへり

此繪詞  
尚齒會繪詞とも  
いへり

じて已小幽興ふ入ふけり

白河尚齒會圖 一卷

畫圖品類載之 不識書 畫筆者

百練抄八卷云承安二年三月十九日於寶莊嚴院有

和歌尚齒會散位敦頼以下為七叟清輔朝臣結構

也

古今著聞集五卷云承安二年三月十九日前大宮大

進清輔朝臣寶莊嚴院ふく和歌の尚齒會を行ひ

たり七叟散位敦頼八十神祇伯顯廣王七十日吉

祿宜成仲七十式部大輔永範七十右京權大夫頼

政九十清輔九十前式部少輔維光六十清輔朝臣

假名序かきたりけり敦頼衣冠小櫻のあつ衣三

を出して鳩杖を法きて久利皮の沓をまきとり

けり清輔朝臣ハ布袴をぞ着りたり進退の間

大貳重家卿裾をとる皇后宮亮季經朝臣沓をそ

ろせけり兩人清輔朝臣が弟おれども座次の上

臆みくありけるよ兄をたふとて深く此禮あ

りけり云云をべく尚齒會多くハ詩會こそ侍る

ふ和歌めづらしき事也上古ふ一度ありけるよ

し其時も沙汰あすけきとも慥おらぬみや云云

又同書ハ養和二年春賀茂  
神主重保尚齒會を載り

或云白河尚齒會圖元來詞のこあすを後人のさ

かしらみ畫を加へるものみく装束已下無誓

の事おほしといへり

俊成卿九十賀圖 一卷

畫圖品類云一卷繪筆者不詳

白河尚齒會繪詞とも  
いへり



增補考古畫譜卷六

或云於畫者後人所副無益考據矣但有群書類從第五百廿九續群書類從第一千並九十賀記

新豊折臂翁 一卷

好古小録云畫光長書寂蓮古昔畫法ヲ唐人ニ取ル此等ノ卷ヲ以テ見ルベシ

畫圖品目云畫光長詞寂蓮

補圖畫一覽上卷云新豊折臂翁殘缺一卷古画目錄又こ

おきみか

躬行曰寂蓮俗名定長皇太后宮大夫俊成卿二男實ハ俊海阿闍梨子建仁二年化せり光長同時の人か?

補真頼曰新豊折臂翁ハ或人曰く疾の草紙の殘闕ふくこの繪その卷頭のも此からんと此

の説さることあるべし詞の筆者も寂蓮ふて亦疾の草紙ふ同し

侍從大納言物語

類聚目錄載之

躬行曰按此繪を不見名を以て勘るふ成道大納言の事ふして蹴鞠堪能の物らさるべし

自然居士繪 一卷

畫圖品目載之

畫圖品類云一卷

静物語 一卷

飛鳥井榮雅入道女一位局書畫一筆

補本朝畫圖品目云静物語

增補考古畫譜卷六



義視足利義教將軍  
子義政弟初為淨土  
寺門主名義尋寬正  
五年歸俗延德三年  
薨五十

補好古圖抄卷六云志つゝ物語鎌倉より静をめ  
しとる物語あり二卷あり古畫あり  
畫圖品類載之

新藏人物語 一卷

畫工未詳詞今出川義視入道白描小卷  
躬行曰此物語ハ藏人何おしゝ娘あやしくをこ  
おをきらひくをのこ此姿ふおて新藏人として  
内ふみや仕へもるを御らんしそめてめ傳罷し  
給ふものかゝるあり此卷書畫一筆とちりる  
る体裁なり元來題号をし今姑く新藏人物語と  
名づく躬行所藏

下崩雙紙 一卷

補古畫目錄云下崩雙紙住吉藏

類聚目錄云刑部大輔光信筆

十二年合戰繪詞

吾妻鏡承元四年十月十日云奥州十二年合戰繪自京都  
被召下之今日御覽仲業依仰讀申其詞云云

十二類合戰繪詞 三卷

補奥書云十二類繪卷物三卷上卷後崇光院中下  
卷青蓮院尊道親王外題大學寺性空親王隨右銘  
々芳翰無疑者也應需證之畢元祿十二己卯年三  
月日古筆了眠又云十二類之畫三卷右繪所預右  
近將監行廣真筆無疑監者也仍如件寶曆十三未  
七月九日畫所預土佐前左京少進光芳  
好古小録云畫藤原廣周一說書上卷後崇光院中

後崇光院諱貞成  
後花園帝御父贈太  
上天皇康正二年八  
月廿九日薨



北朝皇胤以狸為南朝王孫以比高野玉川宮

及下卷尊道親王眼ヲ悦バシムヘク且考古ノ益アリ

倭錦云光弘十二類繪詞後崇光院伏見宮貞常

後記云十二類之畫三卷右畫所預右近將監行廣

真筆無疑盤者也仍如件寶曆十三未七月九日畫

所預土佐左京少進光芳印

上卷後崇光院中下卷青蓮院尊道親王外題大覺

寺性空親王右銘々芳翰無疑者也應需證之畢元

祿十二己卯年二月日古筆了眠

躬行曰柳庵庚子紀行曰三井高就通俗新八齋來十

二類合戰畫三卷畫土佐行廣其文後崇光院貞諱

成宸翰也其文雖似游戲以余考之蓋以十二屬

為北朝皇胤以狸為南朝王孫以比高野玉川宮

焉後崇光院王壓南山而勝北朝獻乎後花園院子諱彦仁稱

光院崩無嗣後小蓋南北二皇和親統一也北皇

松院養為子立之以南皇為太上皇以南皇子為皇太子也稱光登遐

無後南太子必須為皇太子然以後花園院養為

子南皇子作亂而死矣然則此卷成於應永正長

之間乎想後花園院踐祚之初也矣按了小此說

或ハ志あらん

補元榦曰群書類從五百四十二類歌合アリ

補博物館摸本卷尾云住吉内記弘定鑑曰光弘

筆

補真賴曰此の繪卷畫工一定あらば詞書を後

崇光院及尊道親王と定むる時ハ光弘と定む

るもの是ふ似たり



地補考古畫譜卷六

十二類畫 二卷

倭錦云土佐光信十二類卷物

補古畫目錄云十二類繪十二支ナリ光信

補同

補同書云土佐光弘十二類繪詞後崇光院伏見宮

貞常

補同

補本朝畫圖品目云十二類三卷画藤原廣周詞上

卷後崇光院中下卷尊道親王

補古畫目錄云十二類繪彈正忠廣周一説光起

補真賴曰光弘の十二類と同物ふや考ふべし

十二支戲畫

本朝畫史云益繼不知世姓工畫有十二支獸作人

間之事業圖畫後書云寶徳三年八月日當時土佐  
家者流乎

親迎之卷 一卷

高階兼隆筆 白描無詞故式 部丞為恭藏

貫雄曰初一段應舉加彩色了漢土の婚姻を畫

くもと漢畫を摸せるものあり

補將軍塚營造繪 一卷

補高山寺藏筆者不詳

補信寅曰白描畫あり筆意ハ覺融僧正戲畫と

似たるものあり

補真賴曰卷首ふ土を堀穿つところあり中ふ

石棺を造まるところあり末ふ武人の甲冑を

着て弓を持てたてるところありこの武人い

曾補考古畫譜卷六



將軍塚營造繪  
姆尾高山寺藏



曾補考古畫譜卷二

三十



此圖係  
補考古  
畫譜卷  
二第  
三十  
頁之  
第一  
圖也

長命



北地神祇考古畫譜卷六

あふも作りもの、ことしさらへ武人の像を  
るへしこきふより、將軍塚營造圖と名つき  
るるあらん筆意磊落みして奇絶かり恐らく  
へ草稿あるべし幕本博物館ふあり

補 十王生七經 二卷

補 上卷畫ナシ奥書云、嘉吉貳<sup>壬戌</sup>七月十五日巳尅  
釋氏比丘慶鼎頭陀經畫共ニ筆之大和國平群郡  
龍福寺之知事浄土比丘法光持之者也南無西方  
浄土阿弥随如来本願不設必引接給へ、同下卷  
卷首缺卷尾云、六道變相八大地獄圖終<sup>十王讚歎</sup>  
<sup>上下全</sup>奥書云、嘉吉貳年<sup>壬戌</sup>八月廿五日午時書了  
主沙土門僧法光房

補 真頼曰、此の經ハ佛說預脩十王生七經とい

ふ經あり

補 書寫山縁起

補 古畫目錄追加云、書寫山縁起二卷、天正頃の畫

補 星光寺縁起 二卷

補 異本土佐系圖云、刑部少輔光信頭注云、星光寺

縁起二卷、詞書二樂軒

釋 迦縁起 一卷

倭錦云、土佐光重釋迦縁起

同 幅直 三幀

同 書云、身延山奥院什物三幅、筆者不定

躬行曰、最能畫あり

補 執金剛神縁起 三卷

補 圖畫一覽上卷云、東大寺縁起一名執金剛神

補 真頼曰、星光寺  
縁起のこと、ち、部  
地藏縁起の條と  
見合ふべし



增補考古畫譜卷六

補東大寺寶物目錄云。執金剛神緣起三卷一條太  
閣御筆土佐將監畫

補倭錦云。土佐光弘執金剛神緣起東大寺什物詞  
一條兼良公古画類聚目錄亦こまみ同し

補古畫目錄云。執金剛神緣起柴法眼南都東大寺  
藏

補可為曰。畫光信詞兼良公  
補真賴曰。執金剛神緣起又ハ東大寺緣起とい  
ふ。一物あり。東大寺大佛殿緣起とい異ありと  
ノ部東大寺緣起の條見合々へし

神變大菩薩緣起 一幀  
應尊僧都所畫。信濃國松本地藏院所藏

元幹曰。應尊者備前兒島尊龍院住侶也。天保十

躬行曰。光重。越前  
守明德頃行俊卿  
參承從三位應永  
十四十薨

三年八月。地藏院現住秀敬僧都上洛之刻。隨身  
之。素不知其來由。若王寺盈源僧正。一見被加裏  
書了。元幹東行之次。癸卯五月看之

淨土五祖雙紙 一卷  
倭錦云。土佐光重淨土五祖草紙詞行俊卿

志貴山緣起 三卷  
好古小錄云。畫并詞僧覺猷。信實ニ似テ一家ヲナ  
ス。此ノ如キ結構奇絶畫力ト共ニ成ル。俗手ノ企  
及ベカラザル處也

寺社寶物展閱目錄信義山條云。繪詞緣起四卷太子軍

卷。土佐刑部大輔此一局最偽筆不足見。山寄長者

卷。尼公卷。延喜加持卷。畫鳥羽僧正覺融。詞大納言  
行成卿。右三卷書畫共ニ妙跡也。但非行成卿時代

信義山藏本與  
書云。元祿十四年  
暮秋中旬住古廣  
保詞書亭保八年臘  
月上旬參議保光隔

增補考古畫譜卷六





增補考古畫譜卷六

三十三



志貴山縁起  
大和國信貴山藏

增補考古畫譜卷六

實義



大納言  
補真賴曰志貴山  
縁起を道の幸ふ  
四巻といへる其うち  
一卷ハ太子軍といへる  
ものみく異あり

與僧正不合  
道此幸條同云寶物ハ縁起四巻あり其うち三巻ハ  
鳥羽僧正の筆いらふも疑ひあくみ侍り詞ハ  
行成卿といへとも時代たがひぬまばあらぬ成  
べし彼家みてハ伊行朝臣の頃也一局ハ土佐家  
の筆といへどもいと手法ふてうけがとし  
補倭錦云鳥羽僧正志貴山縁起三巻  
補本朝畫圖品目云志貴山縁起三巻畫鳥羽覺猷  
僧正書寺傳云大納言行成卿古畫類聚目錄亦此きふ同じ  
補古畫目錄云志貴山縁起鳥羽僧正覺猷筆大和  
國信義山藏  
躬行曰鳥羽僧正覺猷保延六年九月十五日八  
十八才寂せり行成卿ハ萬壽四年薨しぬまば

北條朝臣  
古畫譜卷六

定信朝臣一切経筆書  
寫久安二年六月廿三  
日卒右京大夫定實朝  
臣男此詞書宇治拾遺  
物語卷八所載をもて  
校す久安第一飛倉の卷  
或ハ山崎長者ハ詞いつ  
アうけて一行し殘  
らば第一所持のまき此  
はじめ此もわら米ひ  
とたりとのせくとを  
をルバ云々より第三尼  
公の卷のを據まの詞  
ハすうて存まら

伊經朝臣嘉祿三  
年正月三日卒行能  
卿伊經朝臣男延應  
二年十一月廿六日薨  
道家公建長四年二月  
廿二日薨一いつまも  
同時の人々なり

素より僧正未生以前の人あり世尊寺伊行朝  
臣ハ官内權大輔定信朝臣ハ男なき僧正ふ  
ハ年歴いさゝあくるまゝるべし定信朝臣ハ  
久安二年卒せり僧正同時といふべし  
補了仲曰志貴山縁起詞筆者を行成卿とも伊  
行朝臣ともいつまゝと共み非あり寂蓮法師の  
筆蹟うさひをさきものなり  
補真賴曰志貴山縁起摸本三巻博物館よあり  
證空繪詞殘缺一名不動起一卷  
好古小録云畫法眼慶恩詞證空の云々并さ世尊  
寺伊經朝臣おほふを云光明峯寺殿智々光病ハ從  
三位行能卿光茂書寫ノ泣不動縁起ト同物ニノ  
結構同シカラズ又此卷灌頂卷ト同手ニノ其畫

白目補考古畫譜卷六



增補考古畫譜卷六

別手ニ出ルカ如レ

倭錦云住吉慶恩不動利益縁起詞光明峯寺殿世尊寺伊經卿同行能卿三筆亦圖本朝画圖目錄

貫雄曰此縁起板谷氏珍藏亦して住吉廣守奥

書を加へ了

補了悦曰此繪詞一卷今淺草元町伊勢屋四郎

兵衛藏せ了

補同 二卷

補圖書一覽上卷云國朝書目云證空繪傳刑部大

輔光茂二卷

補土佐系圖云刑部大輔光茂頭注云僧證空繪詞

傳二卷光成有跋古画目錄亦

真如堂縁起 三卷

補本朝畫圖品目云真如堂縁起三卷畫掃部助久

國

補圖書一覽上卷云真如堂縁起外題各後柏原院

宸翰

皇朝名畫拾彙云掃部助久國工畫大永甲申歲畫

真如堂繪詞傳三卷詞上卷及外簽後柏原院宸翰

中卷青蓮院尊鎮法親王下卷入道前内大臣竟前

大僧正公助寺定法兩筆也寺今寶藏焉

跋云此繪三卷住持昭淳僧都命畫工掃部助久國

令圖之於詞者古今見聞之靈驗等粗抽詮要法勢

前大僧正公助草之誠是寺家未來際之珍奇也道

俗貴賤一見之輩須為滅罪生善往生極樂之良因

而已干時大永四歲次甲申八月記之遍照金剛入道親



增補考古畫譜卷六

王尊鎮

同

新刊

三卷

繪海北友竹書北向雲竹

跋云右本堂阿弥陀佛緣起三卷珍藏久矣去歲本寺罹池魚殃堂宇盡燬而佛像緣起得免其禍寺眾共謀偏叩諸檀營建堂宇因令畫師友竹寫之能書人雲竹書之既成命諸梓工廣四方庶幾使見聞者起歡喜布施之心也聊記年時以跋簡尾其綴文書畫姓名各具本卷今不復贅元祿六年歲次癸酉十月真正極樂寺第廿八世住持沙門尊道謹識

補

淨土曼陀羅緣起

二卷

補新編鎌倉志卷七

光明寺  
宝物部

淨土曼荼羅緣起二卷

詞後京極良經公筆畫土佐將監光起筆ナリ

四大師傳繪

東鑑卷二十云建曆二年十一月八日庚戌於御所  
有繪合之儀以男女老若相分左右被決其勝負此  
八月上旬有沙汰之間面々結構尤甚或自京都尋  
之或態令圖風情廣元朝臣繪者圖小野小町一期  
盛衰事朝光分繪者我朝四大師傳也數局之中此  
兩部頻及御自愛仍老方勝訖  
同書云建保二年三月卅日將軍家御參壽福寺云  
云又去年朝光所進吾朝四大師傳繪有御隨身令  
覽行勇律師給觀彼求法入宋處々就其銘字等被  
直進之

春村曰四大師傳漢文乃古刊本あり頗古書あり  
了無繪吾朝四大師傳教慈覺智證慈惠あり

增補考古畫譜卷六



增補古今圖書集成

淨阿上人繪詞 三卷

補本朝畫圖品目云淨阿上人繪詞畫者姓名不傳  
詞尊應准后

寺社寶物展閱目錄四條道云淨賀上人繪詞三卷  
繪筆者不知詞尊應准后筆廣行云画

道の幸同云開山淨阿上人傳一卷真名也同しき  
繪詞三卷繪ハ筆者ハさざら詞ハ尊應准

后芳翰あり  
親鸞上人繪傳報恩寺藏 四卷

補好古小録云畫淨賀詞書覺如上人  
補本朝畫圖品目云親鸞上人繪詞傳二卷畫法眼

淨賀詞覺如上人  
本朝畫史云僧淨賀居信州康樂寺始畫親鸞上人

之行狀覺如上人書其詞謂之畫傳今藏本寺

奧書云右縁起畫圖之志偏為知恩報德不為戲論  
狂言刺又馳紫毫拾翰林其体尤拙其詞是荀付顯

有痛有耻雖然且涕後見賢者之取捨無顧當時愚  
案之訛謬而已于時永仁第三曆乙未應鐘中旬第二

天至干晡時終草書篇畢執事衡覺如畫工法眼淨  
賀

春村曰此繪原二卷あり後分ク四卷とせり江  
戸報恩寺什物也或ハ云淨賀者木曾大夫坊覺

同  
佛光寺藏 二卷

補古畫目錄云親鸞上人縁起繪二卷京都佛光寺  
藏



增補考古書譜卷六

好古小録云親鸞上人繪詞傳二卷畫工姓名不傳  
書後醍醐帝宸翰  
國朝書目云佛光寺親鸞繪詞傳二卷  
春村曰世小勅傳と稱するものは是あり

圃真頼曰坂戸善重寺ハ東派あり

遺徳法輪集六卷云常陸國茨木郡坂戸善重寺繪傳  
狩野山樂筆

同 四卷

躬行曰後押小路内大臣公忠公永徳三年十二月廿日薨於十一月廿日  
圃真頼曰鷺子村照願寺ハ東派あり

同書云同國那珂郡鷺子村照願寺繪傳四卷畫法  
眼淨賀詞轉法輪太政大臣公忠  
與書云康永二甲申年仲冬朔日外題書之覺如十七

同 四卷

圃真頼曰湊村淨光寺ハ西派あり

同書云同郡湊村淨光寺繪傳四卷繪法眼淨賀書  
執筆覺如

同 六幅

圃真頼曰等々力村萬福寺ハ西派あり

御舊蹟廿四輩記卷六云甲斐國都留郡等々力村  
萬福寺御傳繪六幅繪土佐將監光業銘覺如上人

同

圃真頼曰矢作宿勝蓮寺ハ東派あり

同書云三河國碧海郡矢作宿柳堂勝蓮寺御傳繪  
土佐光業筆銘覺如上人

圃七條日記卷上云三河國加茂郡高橋庄力石村  
皈命山如意寺ハ開基玄海房ナリ此人ハ鎌足公  
ノ後胤真夏公ヨリ十一代ノ末孫日野家ノ廢流  
安藤駿河守隆光ト云シ人ナリ愛子二人ヲ失ヒ  
依夢想發心シ夢ノ告ニ任セ稲田ハ尋來テ御弟

增補考古書譜卷六



增補考古書譜卷六

子トナル人ナリ其後依仰本國へ皈テ豊蔦郡荒  
木ト云所ニ一字ヲ建立シ萬福寺ト号ス其後依  
羣類ヲ化度ノ所縁當國へ来リ花木ト云所ニ令  
居住夫ヨリ志多利ト云所へ移リ此所ニテ七十  
八歳ニテ往生セラル後年覺如上人御巡國ノ片  
今ノ地ニ引移シ寺号ヲモ改如意寺寶物少々ア  
リ右寶物ノ内ニ三幅ノ御繪傳ハ土佐光業ノ筆  
ナリ御銘御贊ハ覺如上人ナリ此御繪傳ニ十所  
ノ異傳有之先初傳ニ聖人御誕生ノ躰相アリ第  
二段ニ御兒三四才許リノ躰同シ比ノ兒三人ト  
各櫻花ヲ持テ走廻リ玉ヲ躰相アリ第三段ニ陽  
明門ノ外ニ官女ノ姿ヲ畫ケリ松虫鈴虫ト云ハ  
ル官女ナルヘキ歟第四段ニ信心諍論ノ處ニ一

人ノ官女ト見エシ女尼ノ姿ト成テ檐ニ居テ聽  
聞ノ躰アリ第五段ニ國府ニ於テ御說法ノ躰ヲ  
画ケリ第六段ニ下野國室ノ八嶋御通りノ体ア  
リ第七段箱根御通りノ片上下二人笈モ替ルナ  
リ箱根屋シキモ多ク有之第八段ニ御往生ノ片  
ノ御姿白キ御小袖御夜具等有之第九段御厨子  
閉帳ノ躰有之第十段ニ東山御廟ノ躰有之松山  
ノ中ニ十三重ノ塔ノ下ニ御銘有之松山ノ中ニ  
九輪ト見ユル物有之

拾遺古德傳 九卷

遺德法輪集卷六云常陸國那珂郡松原上宮寺寶  
物拾遺古德傳コノ傳ハ九卷アリ繪ハ土佐法眼  
ノ筆ニテ文ハ覺如上人ノ御筆ナリ水戸黄門公

增補考古書譜卷六



ヨリ御所望ナサレ上ゲ、レハ褒美トシテ山ヲ  
拝領セラレタリ。後ニ古徳傳ハ黄門公ヨリ菩提  
所ノ浄土寺へ寄進シ給ヘリ  
柳庵隨筆云、詞の傳をてて畫の散逸をるもの拾  
遺古徳傳

同

御舊蹟廿四輩記卷六云、常陸國鹿島郡鳥栖村無  
量壽寺拾遺古徳傳卷物、覺如上人御製作、畫土佐  
將監光業、詞書世尊寺行俊卿  
春村曰、柳庵隨筆、此傳をへく詞存し、繪逸を  
るよし、み記をるへ誤あり  
躬行按ふ、土佐法眼誰ともあらき、土佐光業  
所見し、恐らく訛傳あらん、參議行俊卿ハ應

同

永十四年十月十日薨と家譜ふあき、バ永仁康  
永覺如上人よりハ時代後きより  
号黒  
谷傳  
書畫筆者不知

常樂臺主老衲一期記上卷云、正安三冬頃長井道  
信唐鳴門徒依黒谷傳九卷新草所望在京仍テ大上令草之  
春村按ふ、老衲ハ存學上人、大上ハ覺如上人、  
黒谷傳ハ世ふいふ浄家の九卷傳ハあら  
び

慈眼大師縁起 三卷

繪住吉具慶、詞胤海僧正東叡山什物  
刊本跋云、余嘗自幼侍師之座下、而無日不相追隨、  
恰如形影之相從、然故其舊勲積徳、取所識之者而



作其傳癸亥已前之事跡者亡父宗伯所悉識之者也仍詳誌之垂不朽世言先師之異行者往往有異于與實者只以此記可為證而已慈眼末弟胤海

壽命寺緣起 二卷

補古畫目錄云壽命寺緣起繪二卷攝州池田壽命寺藏

古畫類聚目錄云壽命寺緣起

四恩院畫卷

皇朝名畫拾彙云薩摩法橋觀慶工畫貞和四年於和州春日山下四恩院作畫卷

十念寺緣起 二卷

山域名勝志卷二十云緣起二卷外題 後奈良院宸翰繪土佐

雍州府志云十念寺緣起一卷是上佐家筆也

博物館摹本上卷卷尾云繪光信題籤右大臣近衛家熙公詞妙法院堯延親王今出川大納言伊季卿中山大納言篤親卿平松權中納言時方卿醍醐權中納言昭尹卿裏松前權中納言意光卿山本前權中納言實富卿石井參議行豐卿從三位時香卿桑原從三位長義卿石井侍從行康朝臣

補同下卷跋書云這十念寺緣起者元來附屬之什物也於丹青雖為土佐光信筆於文詞者凡筆也因茲當住明空上人嗟嘆之被申請諸家之手跡於前黃門入道殿權中納言時方卿予蒙嚴命令賴恃之處因圓滿之法緣不累居諸成就之於筆者目錄者為後證記上卷之楮尾尤此兩卷當寺之重寶何物



神皇正統記卷六

若之哉元禄十五曆姑洗中旬從三位時香誌之  
十二因縁繪詞 一卷

畫中務大輔為繼卿詞世尊寺有能朝臣  
補畫圖品目云十二因縁繪詞寂蓮

躬行按ふ從三位為繼卿文永三年薨有能朝  
臣分脉よ名のこを載せと詳あらねど行房朝  
臣の弟あきへ為繼卿あし少し時代おくま  
るへくおもえり

補真頼曰博物館ふ十二因縁繪摸本あり其の  
奥書小云

十二因縁之圖 了意外題  
書世尊寺有能朝臣  
畫中務大輔藤原為繼朝臣ト内記廣尚鑑定

添帖有り 愚案いゝ、槍山成徳持来ル模本  
飛彈所持之由

天保三年壬辰八月九日幕畢 法眼養信 為

如此見込

相國寺供養圖 一卷

書畫筆者不傳

貫雄曰後人の繪を補ひしもの也珠眼あどの  
所為歟但有群書類從第四百卅四相國寺供養  
記一卷

補十五番繪 二卷

補長秋記云長承三年十二月四日依召參大宮以  
女房被仰云明日院可渡御事日来依辭申宮可渡  
給彼院之由所被仰也 中乃使侍從光忠令申院給

曾補考古畫譜卷六



云宮中見苦之故所申可參之由也而備案此□可  
令渡御期何日哉者尚令渡御矣宜欵歸參間可被  
献物等被仰合齋院御料下官所圖十五番繪二卷  
有堀川先朝御筆和字也予申云累銀紙被置玉柳  
筥矣有何夏哉仰云於玉柳筥自本在此宮銀紙忽  
難出来欵又申云於件紙明日午時可□進者

補七天狗繪

補塏囊鈔卷八云天狗名漢書ノ中ニハ天狗ハ流  
星也則太白星ト云ヘリ但諸道ノ長者諸宗ノ行  
者依慢心成天狗ト云ハ其名同シケレ共種類各  
別ナル欵其モ定テ底ハ通ヒ侍ラン砂石集ニ不  
見及ト申サル、天狗ハ此事ニヤ其モ八坂ノ寂  
仙上人融遍七天狗ノ繪ト云事書レタレハ定テ由

緒侍覽云云

補真賴曰延曆寺繪詞といへるものにかあら  
以此の七天狗の繪のうち此一卷あらんえノ  
部延曆寺繪詞此條てノ部天狗草紙の條見あ  
るべし

補酒飯論 一卷

補倭錦云土佐光元酒飯論詞兼載法師

補真賴曰酒飯論或ハ三論或ハ酒食論或ハ下  
戸上戸繪詞といふも同物なり本朝畫圖品  
目ニ三論一卷畫者不傳詞後成恩寺殿酒食論  
畫土佐光元詞一條禪閣と二條ふ掲けよるハ  
誤ありさノ部三論繪の條見合をべし  
補ノ曰予土佐光元の酒飯論此摹本を藏せり



小巻ふて一卷あり原本もあつるみや

補神代繪卷

補幕府所藏

補真頼曰博物館に摸本一卷あり詞書をし巻尾云蓋真本從鰐腹中出云爾又云土佐筆神代之巻物時代二百年餘代二白貫寶永六<sub>己</sub>年五月七日常信判とあり按ざるに此の畫卷神代の事ふあらば蒙古襲來の圖あり

補信西繪詞 一卷

補本朝畫圖品目追加云信西繪詞一卷繪三段あり詞家隆卿此繪卷六波羅行幸侍賢門夜討と同種ふして共ふ平治物語繪卷あり

補古畫目錄云信西入道事跡圖卷軸伊勢國山田

福島太夫所藏或云畫光顯

補真頼曰平治物語信西の巻一卷摸本博物館にあり摹本奥書云詞書家隆卿繪筆者未詳右平治物語信西巻者以伊勢外宮祠官福島豊後所藏真蹟令摸寫畢千時天保癸卯十四年十二月下旬法印養信と見込ふこの繪平治物語繪と同物ありへ部見合をべし

補酒顛童子追討圖 三巻

補圖畫一覽上巻云酒顛童子追討圖畫元信因州侯家藏

補真頼曰酒顛童子追討圖に或は大江山繪詞と稱を去らばとも元信の畫あけるは大江山ふあらばして伊吹山とせり大江山繪詞とい



地初六言畫譜卷六

いふべらら故よ更ふこ、み掲載して搜索の便と以委しく、おノ部大江山繪詞の條見るべし

補酒吞童子物語

補松岡辰方藏

補塵泥云忠憲曰大江山童子物語の元本ハ天文永祿の年間の畫ふしていとふるきものとそ今の世よ了るる二百あまり五六十年のむらし此卷本といひつゝへたり是そ鳥取此城の君の家みひめものとあし給ふよしそをふと、ひ寛永正保の年次守信幽号探こきをうつしものせしハ金森氏みつゝへもさるよしと了るるみいとをくきたる巻軸といひふへきものかりこゝ

み文友松岡辰方家藏をるところの酒吞童子物語此横軸をこゝひ請うて展覽を了みもともふるき模寫ふして畫法よくそあハ了詞書の筆跡ふと、ひ稱きへきものかり卷末み詞を了し給ふ人々の御名をくハしうかいつけかくへきことあるみこきをもらせりかもふところあすての事あすへし云云

補新古太刀刀圖 五卷

補博物館藏或ハ云ふ諸神社佛閣并家藏刀劍圖

補嶋わたる草紙繪

補燕石雜誌卷四云嶋わたる

補真頼曰嶋わたるといへるハ御曹司嶋わたるの草紙かり

繪考古畫譜卷六



地初云可畫譜卷六

補七人比丘尼草紙繪

補燕石雜誌卷四云七人比丘尼

補春畫 一卷

補狩野元信畫所藏詳からば

補真賴曰此の繪の摹本博物館にあり

補同 一卷

補岩佐又兵衛畫竹腰山城守所藏

補真賴曰此の繪金壁地あり今ハ青木信寅所

藏とあり

四十八番春畫 一卷

倭錦云土佐光信

補春畫 一卷

補土佐光信畫

補真賴曰十二番をもく一卷とせし筆意溫柔  
みくめでたし卷末に記して云はく右十二番  
之枕繪土佐刑部大輔光信真筆無疑故加思毫  
以證之寛文癸丑孟冬上旬土佐左近將監光起  
印と見ゆたり

神祇官古圖

速水見聞私記云神祇官古圖有長和二年奥書

好古小録云雖古圖无味

補本朝畫圖品目云神祇官圖

神輿鳳輦圖

古畫類聚目錄云東大寺八幡宮藏

白菊屏風

本朝畫史云皇后藤氏名明子忠仁公良房女而丈

御目補考古畫譜卷六



地神考古畫譜卷六

德帝后清和帝母公也世號染殿后尤巧畫草花近世豐臣太閤秀吉公得其所畫白菊屏風珎之高六尺撒金銀密飾地

白菊御琵琶

紫檀槽撥面畫白菊花胡粉葉莖綠青畫工不傳妙

音院相國師長公之器也尾州家珎藏然文久二年

獻禁中

補真賴曰白菊御琵琶摹本博物館ふあり

神女琵琶

撥面畫蘆畫工不傳來槽今出川殿所藏

鹿九琵琶

撥面畫鹿畫工未詳閑院宮御藏

裝束着用次第圖

三卷

畫圖品目載之

裝束圖式

二卷

畫工不傳

跋記云此一巻故殿諸抄拔書繪且添諸國而常在於座右今別書一本遺之不可出窓外者也可秘々々元龜二年二月朔日龍作藤也此書元祿五年の刊本有といへども縮圖粗惡小して見ふたへぞ

裝束地紋圖

一卷

畫工未詳

奧書云此一巻盛信朝臣雖秘書予依大望暫時令恩借之書寫者也可秘々々本主藤原為益織紋圖會

曾補考古畫譜卷六



地編 古今著聞集卷十一

當世之織文悉収之。松岡士辨輯文化季年就刺

**補** 順德天皇御琵琶撥面繪

**補** 古今著聞集卷十一云。順德院の御時あらし  
き御琵琶のあまけるをいふある名をいづくべ  
きとて藏人孝時ふ風俗催馬樂の名并ふ其歌の  
詞の中よさもあまぬべらんハ申まへきよし  
勅定有けきハ則注進しけり其中ふ大鳥を入ふ  
まけるをこきめてこそあらめとて其名ふさど  
まりふけりさく撥面の繪みふまんと志ける  
時そもく此鳥の姿ハあふものぞ誰知りたる  
と御尋有けるふ申人あまけりふ源大納言通  
具卿繪様候とて奉りけりひふ鳥の色志ふる鳥  
の目嘴あどかそろしげあるがふとくみじり成

まがさ成を書て參らせたりけり御覽してこま  
ハあふ見返さるぞふるく書さる本の有る又  
此定あふぞ注志さる物の有ると御尋有ふ大納  
言つまひららふ申むねあし只そふもとみふる  
くよりうつしもちて候とをあり申されたりさ  
てハ其事正躰なし此人ハをさき事を人ふこ  
そと沙汰有てもちあらま成またりさく孝道  
朝臣ふ御さづねありけれハ風俗みりさひて候  
やうハ大鳥の羽は霜ふま候ハもし鵲あどよ  
てや候らんとぞ推せらま候さらでハ口傳も  
候ハ只歌のことばまてまいし申まあまて  
候と申けまバ此事さも有ると鵲をあらまたる  
とぞ

曾甫考古書譜卷六



增補考古畫譜卷六

補修學院上下御茶屋圖 二卷

補博物館藏畫工不詳

釋奠圖 一卷

畫圖品類云享保十四年十一月廿五日紀宗直有  
奧書本狩野永納所寫本又松岡宗恕所傳伊賀本  
元幹曰大圖小圖の異あり江家次第等ふより  
て製する所素より年中行事此ものふあらば  
補真頼曰釋奠圖摸本一卷博物館にあり紀宗  
直本あり

同供物圖 一卷

奧書云右弘安年中釋奠供物一卷御厨子々左馬  
權助紀宗長朝臣自筆也及四百餘季而破損畢故  
今考舊記粗補之天和三年癸亥二月朔書之御厨

子所備前守紀宗恒押躬行曰有丹鶴叢書中刺本

補同

補古畫目錄云古釋奠圖一卷在足利學校江戸奈  
佐久右衛門藏摹本

補神泉苑圖

補小右記云長和二年三月卅日冷泉院神泉苑繪  
圖則故常所畫送皇太后宮大夫許賢俊為令傳奉左相  
府昨日車中所談也有可見之答仍奉送耳皇太后  
宮大夫返報云只今可傳奉太優美物者

聖德太子繪傳 法隆寺壁畫

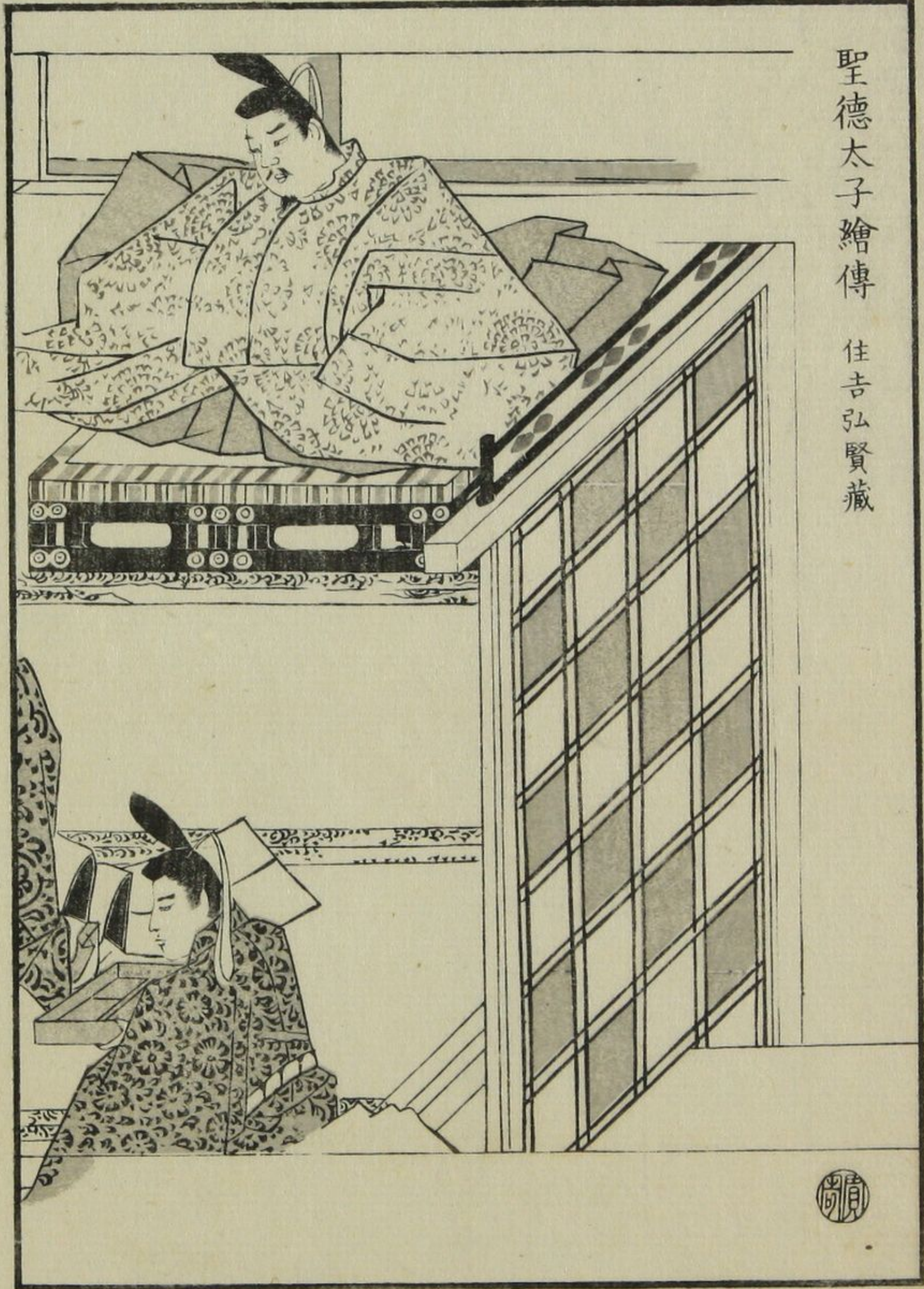
法隆寺繪殿壁畫秦致真題字寺傳伊經朝臣  
補古畫目錄云聖德太子傳圖秦致真筆法隆寺武

上官院繪傳記  
吉村吉田嘉後三條院  
平次所藏

增補考古畫譜卷六



聖德太子繪傳  
住吉弘賢藏



曾甫考古畫譜卷六



延久元年配始從二月始東院之五月書是繪師撰津國大波卿居住秦致真云々長寛二年自二月至八月書也繪殿ノ始也云々夏繪師下向播磨法橋實田京人大工也

殿院什物十枚屏風古夢殿ニ張有之所十枚今為二曲屏風ニ双半。  
補寺社寶物展覧目錄云秦致真筆繪傳壁太子傳圖作屏風ニ双半世尊寺伊經朝臣題字有之右繪殿繪者後三條院延久元年初而秦致真畫之其後光明院建武五年繪師播磨法橋實圓修補之是初度之修復也後圓融院康曆二年第二度之修復有之修復工賢覺坊ト有之候繪師靈元院延寶三年第三度之修復繪師佐野長兵衛同市左衛門ト有之中御門院寶永七年繪殿夢殿觀音大檀無之不殊勝候由ニ而正面北江一間押入佛檀相構候由其以前者觀音之後ニ一間ニ張有之候右之節二間ニ切分佛檀左右江張分候事與相見候其後

天明六年張付ニいたし置候而者兎角損じ安候事を相歎寺僧評定之上舊圖者二枚折屏風五帖ニ張移網封倉相納繪殿之張付者大坂繪師法眼周圭ニ別ニ新寫を命し出来候由ニ御座候補同書朱書云右繪者度々之修復ニ而元圖之筆法者皆失果候儀與相見候責而姿成共昔之通寫傳有之候ハト存候得共是逆茂無心元存候扱又題字之儀世尊寺伊經與書記有之候得共時代相違いたし候伊經者嘉祿之頃之人ニ而後三條院よりハ百五十年時代後候若ハ伊房卿ニ而茂可有之哉是又後人之俗物ニ而筆意取失ひ耽與目利難仕候好古小録云繪傳數種アリテ法隆寺繪殿ノ圖ヲ巨臂トス近年本寺朽敗ヲ恐レ屏風トナシテ寶



藏ニ秘ス。畫力拙カラサレドモ、後世ヲ以當時ヲ  
寫ス。故ニ上官太子ノ御服、黃丹ノ縫腋、公卿ノ束  
帶、五六百年來ノ体也。推古帝ノ朝此ノ如キ衣服  
アラシヤ。又殿舎ノ結構、及器用婦人ノ衣服ニ至  
テハ、皆畫工ノ意ニ任セテ、無替ニ出ルモノ也。  
皇朝名畫拾彙云、秦致真畫太子傳、繪和州法隆寺  
壁而後製為屏風二雙。傳云、題者世尊寺伊經朝臣  
同書云、播磨法橋實圓工畫圖、建武五年修補於法  
隆寺太子傳。  
道ノ幸寺法隆條云、繪殿ノ畫、年をふるみ隨ひく消う  
せんことをかあしみて、屏風よねして此ふあり  
繪ハ秦致真手ハ世尊寺伊經朝臣といひ傳へら  
まども時代たひぬれば、伊房朝臣よてもあら

彌真賴曰此の太子  
繪傳ハ法隆寺の  
繪殿の繪と稱せ  
るものありはノ部  
見合をべし

んらし。云々度々の修復をへさるば、書畫ともみ  
まことの筆意ハ露をあらまも見えぬいとくちを  
しきわさ也。新圖ハ大坂の繪師法眼周圭、文字ハ  
今の柳原殿とぞ。  
倭錦云、秦致真、法隆寺夢殿繪張附、題号世尊寺伊  
房卿。  
躬行曰、世尊寺伊房卿ハ、尊卑分脈ハ、嘉保三年  
九月十九日六十七才薨と記せり。秦致真ハ顯  
文抄ハ、法隆寺太子木像銘ふらして、治暦頃の  
人とさるふらば、年代あへり。伊經朝臣ハ分  
脈ハ、嘉祿三年正月三日卒とありて、百年あま  
りも後の人あり。  
春村曰、余うもとふ本寺中院良訓の手澤本、補



古今圖書集成

忘集といふをもてり。致真此書ふハ致貞亦作

きり

同

唐招提寺

同書云。春日光長和州招提寺太子堂繪張附

同

四天王寺

本朝畫史云。豐太閤嘗興復天王寺。令光賴後号畫

聖德太子緣起於堂壁。元和年中同寺罹災。及其重

興。山樂復蒙鈞命圖之。

同

法隆寺直軸

四鋪

倭錦云。巨勢有家太子繪傳。法隆寺什物

寺社寶物展閱目錄法隆寺條云。無名氏太子繪傳四幅

但住吉法眼筆。太子行狀六幅。法隆寺亦有よし狩

野永衲記。し置といへども此繪四幅あらでハあ

べし。画法巨勢有家といへども此繪四幅あらでハあ

補真頼曰。摹本四幅。博物館ふあり。原本ハ絹本

あり。模本の傍書ふ云。よく畫者不詳。詞書ハ醍

醐座主聖雲法親王御筆。と見ゆ。り。聖雲法親

王ハ。龜山天皇の御子みませせり

同

藏同

六幅

本朝畫史云。住吉法眼不知姓名。和州法隆寺有聖

德太子行狀六幅

補古畫類聚目錄云。太子傳繪。法隆寺藏。慶恩筆古

目録亦

同。補好古小録上卷云。上宮太子傳畫。數種アリテ。法

隆寺繪殿ノ圖ヲ巨臂トス。云々又直幅六其圖大

概繪殿ノ如ニシテ。畫法腕力。伯仲ヲ成シ難シ。此

餘諸佛刹等ニ藏スル。上宮太子繪詞數種アリ。畫

古今圖書集成



補真賴曰法隆寺  
宝物畧縁起とあ  
るに恐らくは法  
隆寺宝物畧縁由  
なきべし

地補考古畫部卷六

力賞スヘキ者ナシ今皆此ヲ略ス

躬行曰此直幅生々次ニ識を經隆の繪傳とい  
まへ本寺ふなきよし展閱目錄ふみまゝり

同 藏 四鋪

法隆寺寶物畧縁起云御繪傳四幅土佐權守經隆

筆

補 倭錦云土佐經隆太子繪傳掛物

補 同

補 同書云土佐經隆太子畫小圖卷物

同 廣隆寺藏 四鋪

寺社寶物展閱目錄太秦寺藏云土佐光信筆繪傳四幅

非光信  
古画也

倭錦云土佐行廣太子繪傳太秦什物

補 古畫目錄云太秦寺聖德太子傳非光信

補 真賴曰廣隆寺太子傳繪四幅絹本摹本博物

館ふあゝ剥落多きものあり

同 四天王寺藏

同 書云住吉慶恩太子傳繪小圖天王寺什物

同 妙安寺藏

補 本朝畫圖品目云妙安寺太子傳

柳庵隨筆云妙安寺太子傳畫法眼慶恩

同 六角堂藏

倭錦云京師六角堂太子縁起筆者不定

補 同 十二卷

補 圖書一覽下卷云越中國砥波郡伊波瑞泉寺土淨

真宗 太子傳十二卷軸金岡筆ト云傳フ

繪部補考古畫部卷六



補同 八幅

補寺社寶物展覧目錄卷三橘寺の條云土佐將監筆太子繪傳八幅俗筆ふく古圖を寫候ものふもや光信の沙汰ふ及候ものふハ無之候

同 二幅

倭錦云巨勢弘高聖德太子傳

躬行曰杉浦左衛門尉所藏也

同 五鋪

同書云隆信太子繪傳五幅題号慈鎮和尚

補古畫類聚目錄云太子傳繪右京大夫隆信筆

補古畫目錄云聖德太子傳繪五幅絹本右京大夫

隆信筆住吉内記藏

貫雄曰此繪傳住吉家傳來ふして真蹟無論の

ものあり

躬行曰隆信朝臣元久二年二月卒慈圓僧正慈

鎮と稱を嘉祿三年二月十五日入滅同時代と

いふべし

同 三鋪

同書云土佐行光太子繪傳三幅

貫雄曰此繪傳住吉家傳來あり

補同

補倭錦云太子畫傳卷物筆者不定信貴山藏

同 廣隆寺藏号 五卷

補古畫目錄云八耳皇子傳五卷住吉内記廣通筆

京太泰廣隆寺藏本朝畫圖品目

倭錦云住吉如慶太子繪傳五卷京太泰廣隆寺什



物 寺社寶物展閱目錄太秦條云太子傳住吉廣通筆

補同 二幅

補遺德法輪集卷六云太子傳二幅狩野光信筆常陸國茨城郡坂戸東派善重寺藏

補同

補同書云太子傳土佐法眼光信筆銘覺如上人常陸國那珂郡額田十壺山東派阿彌陀寺藏

補同 六幅

補同書云太子傳六幅筆者不知常陸國那珂郡大畠信證山西派壽命寺藏

補同 一幅

補同書云太子傳一幅善鸞上人筆常陸國那珂郡

鷲子村東派照願寺藏

補同

補同書云太子傳土佐法眼筆詞世尊寺定成朝臣常陸國那珂郡松原西派上宮寺藏

同摸本

好古小錄云山陵ヲ築ク圖アリ又帳臺ノアル殿ニ人多ク泣卧タル所アリ畫法精好腕力不凡新

豊折臂翁ニ似タリ摹本ニ葉ニ不足ト雖奇品也

同屏風

唐招提寺藏太子傳屏風筆者不傳

補元幹曰唐招提寺所藏ノ屏風ニ太子傳ノ繪有.四百年許ノモノ也畫圖ノ異同ハ不考



四季屏風

古今著聞集卷十一云、近衛大殿の御相傳の屏風  
ども、みお寶物よて侍るうへ、そんじたまはと  
て、四季比大和繪を一月を一帖みかきて、あはら  
しく調せられ、るとかん、可然事のとき客の座  
みたてらるゝなり、元日節會ハ豊樂院の儀をぞ  
書く侍るある、延喜の御時の月宴、みろを水のあ  
がきやうなど、ふるきふさかへ、かゝきさるゝい  
と興ある事みなん侍るある

四季障子繪

同書云、一條攝政左大臣ふれえしましける時、を  
意奉らむとく、一條室まちの御所を光明峯寺入  
道との前備中守行範よ仰て修理せられふたり

寛元三年十月廿九日御わさまし有たり、はくま  
ども少々、あらとめられ、けり寢殿二棟の障子  
ども、常のから繪ハ無念ありとて、平等院の寶藏  
の四季比御屏風を、二條前関白殿長者みてかを  
しましける時、み申されて、とり出して、寫させ、ふ  
けり、人々のまがさも、みまむらし繪みてぞ侍る  
ある、いと見所あり、武徳殿の競馬のところよ、み  
も、あらぬ人の姿ども、おほり、さぐのゝ御幸ふ  
御輿のうへ、ふ虎の皮をおほひさるなど、ふるき  
こと、もをかゝ、さるゝいと興あり、承保の野行  
幸よ、いとら、はを、おほ、れ、さ、ま、るゝとな  
む

補 詩の意の繪屏風



此種考古畫譜卷六

補日本紀略云天曆三年十二月日仰左大辨大江朝綱朝臣令撰坤元錄為詩題廿首仰采女正巨勢公忠今圖屏風八帖仰朝綱朝臣文章博士橘直幹大内記菅原文時等作詩式部大輔大江維時撰定之右衛門佐小野道風書之略中

十二天屏風

補倭錦云宅磨勝賀十二天屏風東寺什物  
補東寺修行日記云元德二年五月七日今日大勸進文觀上人參當寺之寶藏仰道具唐櫃納所之小ツシヲ可被作トテ番匠則相具シテ被檢知了其次十二天屏風為修補彼寺へ被渡了仍□□請取

十二天屏風 京都東寺藏



留補考古畫譜卷六



有之

東寺十二天屏風預置云々加修補可返納了仍  
 請取如件 元德二年五月七日竹林寺修行判  
 本朝畫史云東寺長者補任曰建久二年新造屏風  
 奉寫十二天其種字者御室二品親王守覺其繪者  
 宅磨法橋勝賀作之  
 展閱目錄條東寺云琢磨法眼筆十二天屏風一双  
 春村曰此屏風の事東寺修行日記元德二年五  
 月七日今日大勸進文觀上人參當寺之寶竿仰  
 云々其次十二天屏風為修補彼寺へ被渡了仍  
 件事請取有之東寺十二天屏風預置云云加修  
 補可返納候仍請取如件元德二年五月日竹林  
 寺執事押とあり

同

補真頼曰東寺十二天屏風摸本博物館にあり

同書條高尾云琢磨法眼筆十二天屏風

倭錦云宅磨澄賀高尾什物十二天屏風

十界圖屏風

本朝畫史云惠心院僧都諱源信姓卜部和州人寛  
 仁元年化今和州當麻寺中有十界圖屏風  
 展閱目錄云條當麻寺云惠心僧都十界屏風色紙形  
 伏見院宸翰といひ傳ふまども畫凡東山頃の  
 のとみ色紙形も伏見帝宸翰ふあらば  
 倭錦云筆者不定當麻奥院十界屏風  
 補道の幸條當麻院與云十界の屏風として名高き寶物  
 ある繪ハ惠心僧都色紙ハ伏見院宸翰といへ



北神考古畫譜卷六

といとうさかきよのあり

補 十往生御障子繪

補 長秋記云保延元年七月廿一日臨晚參院以伊豫守申御室事池堀檢非違使等結番可賜扉繪十往生御障子繪汝可撰申給往生繪二帖云云

補 瀟湘八景障子

補 京花集卷十三云文明十五年癸卯六月廿七日准三宮大相公初移東山新府貴戚權門冠蓋如織蓋賀落成也略中於其殿中也命符野大井助畫瀟湘八景於障子特撰吾徒能詩者各賦一詩張於其上云云

釋迦堂壁畫

刑部大輔光長畫壁上及柱十二天等之諸佛在京

師大報恩寺中

補 四天王像の扉繪

補 畫工便覽卷四芝琳玄南都宅磨氏末葉也傳家學精佛像圖長谷觀音扉於四天王像云云

補 同

補 玉海云建久二年九月廿七日此日中宮御祈始中略本尊曼陀羅秘本并四天王等像新圖之繪師法橋賴成

補 同

補 攝陽群談卷十二寺院部上之一四云貞應三年甲子始自去冬三春孟夏之間以繪師法眼尊智守本子樣依傳文圖繪既訖今於西面更畫作九品往生人殊勸進一乘淨土之業表裏共不交他筆尊智圖之

北神考古畫譜卷六



以詩歌形其心詩句九品同令管大府卿為長作之  
和歌承相以下廣勸九人各詠一首復當南北裏同  
畫四天像此堂大僧正行慶寺務之間顛倒之後以  
聖靈院禮堂東廂為其所今新建立于舊跡彰興隆  
之本意也別當前大僧正法印大和尚位慈圓記之  
云云

補淨土圖

補元亨釋書卷二云釋智光內州人共禮光止元興  
寺得智藏三論之深旨藏之室中推二人為神足有  
靈叡者受于二光今之三論家皆叡之胤也禮暮年  
禁語音智問焉渾無所答數歲禮逝智嘆曰禮者少  
年之莫逆也近歲持不語思精修也而不知受生何  
處祈念三二月一夕夢至禮所嚴麗光潔智問此處

何乎對曰極樂界子以懇志且來此也然非子居早  
出去智曰若是安養亦我夙樂偶至斯何須歸乎禮  
曰子無行業不可居智曰我生平見子行無過我近  
只持不語耳又言我乎禮曰我冷見經論頗委淨業  
往生資糧無加觀想是以絕言語謝人事四威儀中  
專觀弥陀相好及淨土莊嚴積功累德今生樂邦我  
若不絕言語不謝人事不至絕想子今詰我乎智曰  
然則乞受訣禮曰子盍問弥陀智即共禮詣佛所莊  
嚴光色又過禮所智頭面作禮白佛言何等是往生  
正修業佛告智言觀如來相好及淨土莊嚴智曰今  
見此界廣博嚴飾心眼不及况又如來相好豈凡慮  
之所堪乎於是弥陀便舉右手智見堂中現小淨土  
嚴飾具足智覺命工圖佛堂淨土常自觀之其後吉



祥而逝其圖見在元興寺世爭模寫

十二願繪

榮花物語鳥の云、藥師ほとけのねまへのうたの  
も屋の柱ふり十二大願のころを繪よみ、せ  
給へり六觀音のおまへの方れをしらふの觀音  
品の偈れこゝろをみあゝ、せ給へり、飯室のあ  
さる此手を盡し給へるほどおもひやるべし  
名畫拾彙云、文惠号飯室阿闍梨伊尹公孫工畫萬  
壽元年新造御堂畫十二願意觀音品偈意共絶妙  
躬行按ふ、文惠所見あし、蓋文惠の延圓之誤也  
尊卑分脈を勘るふ、伊尹公子權中納言義懷卿  
花山帝み隨て出家して、飯室入道と号せり、其  
第五男延圓畫を能き、世み稱して繪阿闍梨と

と、飯室阿闍梨けざし之をいへる歟

十界圖 十五鋪

補古畫目錄云、十界圖金岡筆ト云傳フ非金岡筆

行秀歟近江國坂本來迎寺藏

好古小録云、來迎寺十界圖傳云三十幅今僧惠心

ノ結構ニノ巨勢金岡所畫ト云、道風真蹟ノ和漢

朗詠集ト伯仲ス、蓋惠心ハ是ニノ金岡ハ非ナリ

此圖中古ノ製、可考事多シ

安齋隨筆云、十界圖原三十幅也、其内四聖圖十五

ハ、元龜ノ亂ニ、比叡山ニテ焼失ス、六道圖十五幅

ハ、今ニ傳ヘテ近江國坂本村來迎寺ニ有之、圓融

院ノ御代、惠心僧都往生要集ヲ撰ミテ、叡覽ニ備

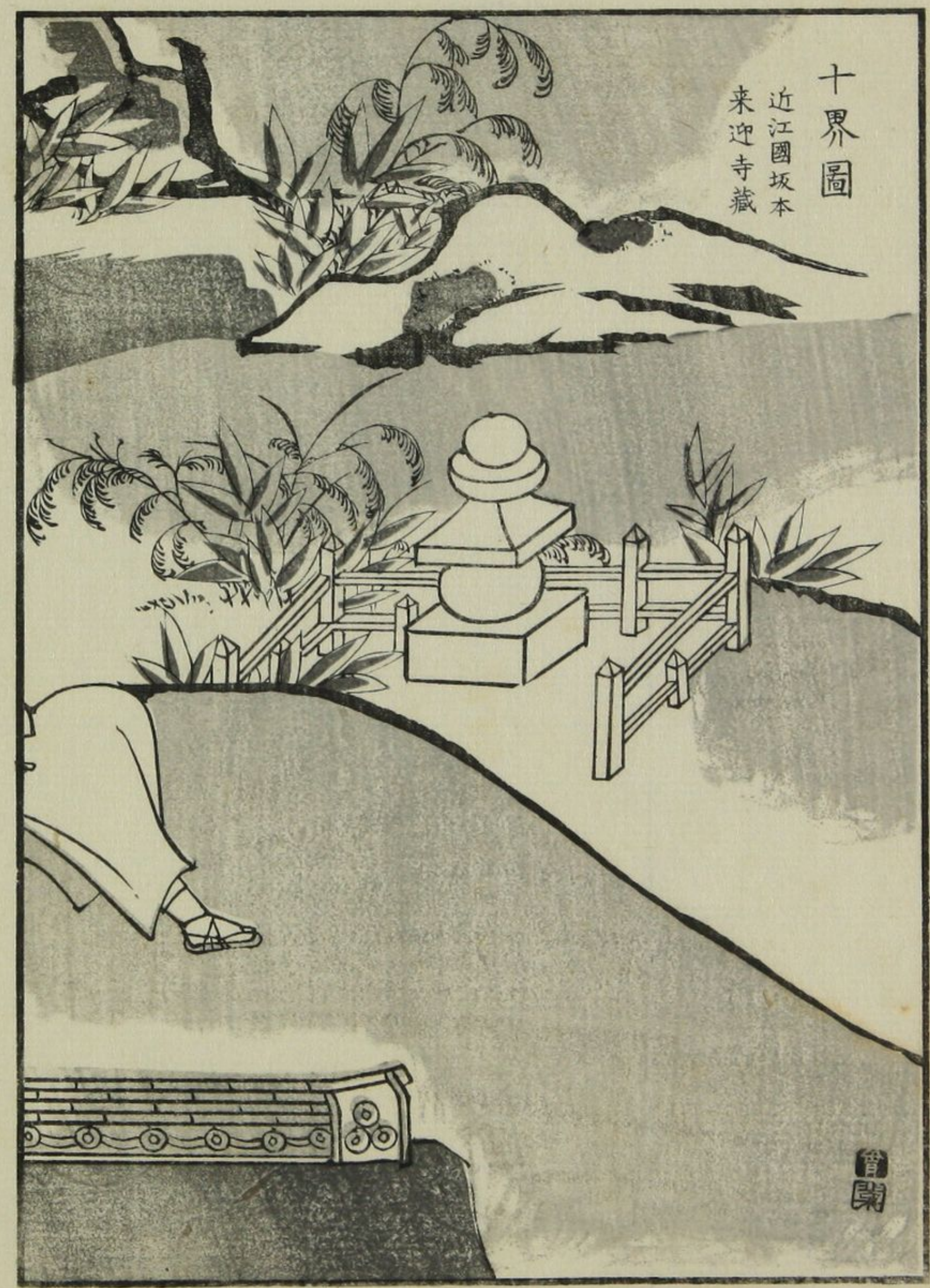
ヘシカバ、御感ノ餘リニ、其書ノ事相ヲ繪ニ寫シ

補遺類曰此十界圖  
ハ來迎寺十界圖と  
もいへらる部見合  
せし





曾補考古畫音卷六



十界圖  
近江國坂本  
來迎寺藏

增補考古畫音卷六



女御后妣ノ為ニスベキ旨畫工ニ命ゼラレ僧都  
ノ指南ヲ受テ圖畫セリト其圖賛ハ僧都ノ筆也  
繪ハ巨勢金岡ト云傳ヘタレドモ時代相違セリ  
畫圖品目云九相十界圖十五幅修理亮光秀畫江  
州坂本来迎寺藏  
倭錦云巨勢弘高十界十五幅賛惠心僧都江州来  
迎寺什物

躬行曰采女正金岡ハ寛平延喜中の人惠心ハ  
寛仁元年化せり弘高ハ深江ノ男長保寛弘中  
の人僧都同時といふべし光秀ハ刑部大輔吉  
光比男元亨頃の人あり今傳ふる所の圖甚古  
からびみゆ圖賛ハ楷あり草あり又色紙のミ  
を畫きと賛辭をらぬもの一二見ると

補元幹日巨勢弘高所畫歟

補真頼曰近江國坂本来迎寺藏十界圖ハ彼寺  
ハ二種あるふや予彼寺より寫し來るといへ  
るものをこるは二種あり大同小異のもの此を  
と一種ハ其の文いさゝらみしうし博物館ハ  
一種摸本あり文のみしかさうたを

補十界圖

補圖畫一覽下卷来迎寺十界圖の條下云報恩寺十界圖

補元幹曰報恩寺ハ淨賀の筆といふものあり  
十界圖おまとも来迎寺のもの比とハ別ありと  
可爲の説あり

十王圖

補本朝畫圖品目云十王圖差我二尊院什或云春



日行秀畫ト云フ

畫圖品目云嵯峨二尊院什

倭錦云吉光十王繪嵯峨二尊院什物

同

倭錦云巨勢有久地藏十王

同

同書云土佐行廣地藏尊十王

同

土佐系圖云十王圖春日行秀畫

同

補古畫類聚目錄云十王變相圖下野國小藥村稱念寺藏

類聚目錄云下野國小藥村稱念寺藏脱画工姓名

補同

十幅

補圖書一覽上卷云品目云畫者姓名不傳武州如来寺什物

補

十二因縁譬喻圖 一卷

補梅尾高山寺藏畫兼康

補真頼曰十二因縁譬喻圖ハ世ニ兼康畫本といへる委しくハカノ部ニあり就て見るべし

摸本博物館ニあり

補又曰此の十二因縁繪ハ為繼朝臣の名づけるといふ十二因縁繪との異あり混ぶべから

ば

補

信貴山寶物圖 一卷 外三枚

補摹本博物館ニあり



補真頼曰。補正成の武器馬具あり。

集古紋盡 五卷  
書圖品目載之  
乘車兩皮圖 一卷

集古圖 廿六卷  
類聚目錄載之

天文、地理、度量、鈴印、服飾、銅器、錦綾、褥席、輿輦、刀劔、槍矛、玉器、瓷器、食器、木器、鐵器、文房、餅、鳥魚、碑銘、墓具附錄、扁額或加樂器、藤貞幹輯

集古十種  
刀劔、甲冑、弓箭、旌旗、馬具、肖像、文房、樂器、銅器、玉器、八景等、白川少將定信朝臣撰  
躬行曰。此餘專ら書圖ふ不聞もの印章、碑銘、鐘

銘、扁額、空海七祖贊、小倉色紙あり。各刻成く世上ふ傳播せり。實ふ盛事といふべし。然るふ此舉侯の自撰と稱まきとも概侍臣の手ふあま。故ふ間訛謬なきことあふ。可憐可憐

補同別本 九卷  
補摹本九卷。博物館ふあり。神佛像、家屋、殿門、衣服、調度、武具、簿、函等ふ。部門をこらてり

補真頼曰。摹本表紙ふ。松平越中守殿より参るとあり。因く案ふくまき。又松平定信朝臣の撰

寫生卷 一卷  
名畫拾彙云。藤原長隆、吉光、男、從五位下、越前守、後難、髮号、姉小路快閑、叙法眼、精畫圖、後宇多院朝人



或云畫法然上人影像在黑谷按看長隆所畫寫生  
草花翎毛之古摹本極逸致其局中所々有年月題  
名刊本既以出之皆文永正應弘安年季也謂吉光  
之父兄則可矣為吉光之子則誤矣曾閱藤原系圖  
同時有長隆者室町家信又為從五位下越前守暗  
合名與官因錄備後考

倭錦云生寫物卷物弘安年号  
畫後記云文永十年十月廿四日寫之卷中又云弘  
安九年四月廿一日加彩色長隆

躬行按み越前守侍從長隆顯文抄ニ尊卑分脉  
ふよりて左中將家信卿の四男文永中の人と  
せまは分脉を勘る上件の家信卿は男右  
中將雅繼卿の四男ふ侍從長隆あり又畫所預

隆能弟壬生中納言光隆卿男雅隆の二男ふも  
侍從長隆ありかく遠うらぬ前後ふ同官同姓  
同名あるこそいふらしけれ倭錦ふハ經隆の  
男と記せまど分脉またぢひことふ時代も合  
さるハ例の附會あり

補十二月繪

補筆者詳ならぬ神田孝平所藏

補真頼曰足利氏季世の風俗見るべきものな  
る天文ころれものあるべきら

補同

補古書類聚目録云十二月繪

補同小屏風

古畫目録云十二月小屏風繪



補射禮圖 一卷

補畫圖品類云、年中行事の畫より抄出せしものあり

十二布袋圖 一卷

法眼如慶畫之掛川彦所藏

補信西入道舞樂圖

補古畫目錄云、信西入道舞樂之圖、藝州宮島藏

補裝束猿の繪

補倭錦云、土佐光弘裝束猿

補新繪

補明月記云、嘉祿三年十二月廿八日、詔信實令畫新繪、今日持參内裏云云

補真賴曰、新繪といへるは畫工のあらたみ繪

を設け出さるふくめづらある圖みやあらん明月記、拔萃歌道、文治四年四月廿二日、千載集奏覽の條、小宮時繪自御、葦手有新歌と見ゆ、る新歌も千載集を納る、宮のうへみかくべきため、天皇のさらよみ出給へるを新歌といふあるへし、新繪もこの類みや

補十牛圖

補畫工便覽卷四云、古岳和尚名宗、且大德寺實傳宗真弟子、悟道發明而長手跡好繪、常畫佛祖及九相、死躰十牛圖共贊之

補皇朝名畫拾彙卷四云、古岳宗且禪師、別号生莒、江州人、實傳真法大、特賜正法大聖國師天正十年六月廿四日書、偈、師嘗畫佛祖像及九相十牛圖、并而化歲八十四

補真賴曰、この部國牛十圖の條見合まべし



推古天皇記云五年  
夏四月丁丑朔百濟  
王遣王子阿佐朝  
貢

贊之 便覽

聖德太子像 一幀

百濟國太子阿佐所畫法隆寺所傳

補集古十種部肖像云聖德太子像大和國法隆寺藏

百濟國阿佐太子所畫

補本朝畫圖目云聖德太子御影百濟王子阿佐

所畫法隆寺藏古画類聚目錄

好古小錄云國朝古畫の存スルモノ此ニ過タル

有ベカラズ衣服ノ制モ聊可考

皇朝名畫拾彙云阿佐所畫聖德太子像今猶在<sub>二</sub>南

都法隆寺見其摸本筆法高古規度宏淵實為海內

之珍

寺社寶物展覧目錄云法隆寺條云畫法古拙ふして鴨

毛屏風と筆法相似なり世上所有烏紗帽帶劔の  
像より此圖當時の真成べし

道の幸同條云けふい細封といへる又庫ふく寶物

拜見を百濟の阿佐太子筆上宮太子の肖像あり

是ぞ此庫中第一の物とみまゝなる阿佐ハ平氏の

太子傳ふもみまゝし人あり

柳庵隨筆云畫の古きもの法隆寺ふ傳ふまゝ太

子真影ふ過ふるハあし是百濟國阿佐太子の筆

ありといひ傳へる冠劍衣服の制當時の容儀

を直視をべし是ふ次てハ東大寺鴨毛屏風の繪

多武峰の大職冠像淡海公像當麻曼陀羅みま是

千歳已上の古物ふして水火の災を遁き今ふ傳

をまゝるもの也



同

補真賴曰。摹本博物館にあり。原本紙本なり。

倭錦云。春日光長。聖德太子妹子馬子圖。

貫雄曰。此圖世上に散見す。光長所畫を巨臂と  
すべし。然まども其所在を知らば。すの惟久所  
寫。板谷氏こきを藏せり。

同自畫像 一幀

本朝畫史云。太子自畫像。在難波四天王寺。大如全

人。正面而座。未知實孰觀之。筆力雄偉。又非凡作

補集古十種部肖像云。攝津國四天王寺藏。所謂揚枝

御影

補古畫類聚目錄云。聖德太子像。攝州四天王寺藏

補攝陽群談卷十二 四天王寺條 一云。寶藏。東僧坊



聖德太子像 所謂揚枝御影 四天王寺藏

留案



東ニアリ。十一面觀音ヲ安置ス。本願縁起太子御名御手印同御寫後醍醐天皇宸筆太子御影太子御經太子御筆小字法華經一卷揚枝御影太子御之画太子御筆

補真賴曰。摹本博物館ふあり

補同

補倭錦云。住吉慶恩。太子真向御影。天王寺什物

補同

補法隆寺嘉元記云。建武五年五月廿八日。御舍利堂。太子御影。修覆。佛師實圓播磨法橋京人此御影者。尊智法眼。承久四年三月十一日奉圖繪之云云

補同

補法隆寺藏絹本

補裏書云。此尊像者。聖德太子御直筆。當時御建立。砌見水鏡畫。故傳云。水鏡像。一年一山禪師詣當寺。拜其像。次敬讚之云々。年來綱封藏納有之所。此度開帳取出。加修補。令拜見者也。昔元祿三年庚午曆二月三日。地藏院覺賢大法師修補。沙汰之。

補真賴曰。赤き衣を着せる真向の像あり。畫工み寧一山の賛あり。絹地みく切り入きさり。摸本博物館ふあり

補同

補法隆寺藏。稱云。水鏡御影

補真賴曰。法隆寺み水鏡の御影と稱するもの二種あり。此像其一也。相似く同しうらば裏書み永徳三年六月廿四日。住持沙門深泉。寛文四



年七月、弥勒院住僧權少僧都懷清、元禄三年二月、弥勒院懷賢の記あり。摹本博物館ふあり。

補同 一幀

補多武峯藏、御自畫、摹本博物館ふあり。巨幅あり。補真頼曰、赤き衣を着し、双手ふく笏をもてる。真向の像あり。法隆寺の水鏡御影と稱するものと相似し。

補同

補攝津國産湯稻荷社藏

補真頼曰、赤き衣を着せる真向の像あり。法隆寺の像とたほらふおかし。摹本博物館ふあり。

補同

補倭錦云、飛彈守惟久、聖徳太子像

補同

補梅尾高山寺藏

補真頼曰、高山寺藏、摸本博物館ふあり。四天王寺揚枝の御影、攝津國産湯稻荷社藏、法隆寺藏、高山寺藏、其の圖大略おかし。さまざまのあり。いつまら原本おらん。

補同童形像

補所有者を志らば

補真頼曰、摸本博物館ふあり。立像ふく髪ハみづらみ結へり。其髪甚長し。手ふ笏をもちし。

補同

補集古十種部肖像云、聖徳太子像、攝津國中山寺藏。傳云、十六歳。



補真賴曰。髮ハみづらみ結へる座像あり

補同二歳像

補同書云。聖德太子像。大和國極樂院藏。傳云二歳像

補真賴曰。赤裸めて合掌し。禪を着し。世ハ南無佛の像といふ。即是あり

補同南無佛像

補東鑑卷十九云。承元四年十一月廿二日丙午。於御持佛堂被供養聖德太子御影。南無真智房法橋

隆宣為導師。此事日来御願云云

補同

補本朝畫圖品目云。上宮太子御影。下太子將軍寺

聖德太子像

法隆寺藏



補本朝畫圖品目



補同說法像

補集古十種肖像部云聖德太子說法像河内國上宮

太子聖光明院藏

補古畫類聚目錄云橘寺太子說法圖河内國上太子聖光明院藏

補真賴曰像の前み十二脚の案あり太子ハ寶冠をいくけり

補同

補集古十種肖像部云聖德太子說法像武藏國高輪

泉岳寺藏

補古畫類聚目錄云聖德太子說法圖江戸泉岳寺藏

補真賴曰像の前み八脚案あり

補同 一幀

補狩野晴川院藏絹本畫工不詳古土佐と稱を摹本博物館ふあり記して云此真蹟余カ家ニ藏ス然而文政十二年ノ火ニ燒失畢此故ニ今狩野董川所傳ノ摸本ヲ以テ摸之天保十五年孟春晴川院法印

補真賴曰此像泉岳寺所藏のも此と相似て前み八脚案あり

同勝曼經講讚圖

寺社寶物展覧目錄法隆寺條云无名氏太子勝曼經講

贊圖畫妹子馬子百濟人剥落不分明

同勝曼師子孔一乘大方便方廣經卷標繪

卷端畫太子勝曼經講讚圖及大兄皇子蘇我馬子

推古天皇紀十四年秋七月天皇請皇太子令講勝曼經三日說竟之



小野臣妹子百濟博士學等。高麗法師惠慈。各有題名。畫工姓名不傳。法隆寺所傳

同孝養影

倭錦云。訖磨榮賀太子孝養影。讚夢窓泉州源光寺什物。

補聖德太子并道俗群集圖 一幀

補所藏者不詳。摹本博物館あり。傍み記して云。日野大納言様より來云々。晴雪繪本。

補畫下記して云。皇太子聖德御縁起。新羅國上人日羅禮曰。敬礼救世觀世音傳燈東方粟散王。從於西誕生皆演妙法。座衆生百濟禮曰。敬礼救世大慈觀音菩薩妙法。沃通東方日本國。四十九歲傳燈演說。補真賴曰。此圖聖德太子中央より立。蘇我馬子僧

日羅を始。僧親鸞僧了海等。み至る道俗二十五人圍繞せる圖あり。各名書あり。

補四天及太子像

補太子傳玉林鈔卷十九。法隆學問寺御舎云。四天太子御影。太子御真筆箱ニ入レ之。關東極樂寺長老寄進狀在之。

補真賴曰。四天太子とハ四天王と聖德太子とを畫かけし圖あり。べしこの繪今ハ傳はらぬ。みや

補聖德太子三十五歳像 一幅

補同書云。太子三十五歳御影一鋪銘文在之。箱ニ入レ之。

補聖德太子像 二幅



補同書云太子御影二鋪云唐本御影也但有異說箱ニ入レ之

四聖像 一幀

聖武天皇真容僧菩提行基良辨侍座畫工不傳東大寺四聖坊安置

躬行曰菩提ハ世ニ婆羅門僧正といへり私ニおもへらく萬乗の尊を屈して斗擻の徒ニ混し四聖と並べ稱して人之を咎めぞ怪しむべし嘆をべし

補真賴曰聖武天皇及三僧皆座像あり摹本博物館ニあり

補同

補本朝畫圖品目云四聖像聖武天皇婆羅門行基

四聖像

東大寺四聖坊藏



實義



良辨南都眉間寺什

補 聖武天皇御影

補 集古十種

肖像部

云聖武帝御影大和國眉間寺藏

補 真賴曰此の御影剥落甚し御うしろみ暈縹縁の障子にてり

補 同

補 同書云聖武帝御影大和國眉間寺藏

補 真賴曰御笏を持給へる御影あり

補 同

補 古畫類聚目錄云聖武天皇釣鏡御影南都眉間寺藏

補 真賴曰予釣鏡御影の粉本を見らば天皇八稜鏡ふむらひ居給へる圖あり手は珠數を持

給へる

補 同

補 奈良植村久道藏畫工詳あらざ

補 真賴曰東帶の座像あり畫上は置色紙三枚あり天皇の傳を志るせり

白河法皇御影

畫匠不傳成菩提院藏

補 真賴曰摹本博物館ふあり記して云成菩提院御影白川阿弥陀堂御影全同歟云々と見ゆり座像ふく右手は扇を持たまへり

補 真如法親王像

補 古畫目錄云真如法親王像畫隆信

補 俊成卿法躰像



補集古十種肖像部云、藤原俊成卿像或云、青蓮院宮

御藏

補古畫類聚目錄云、五條三位俊成卿像青蓮院宮

御藏

補真賴曰、脇卓みの、きり前み桐火桶あり

補同

補倭錦云、土佐廣周釋阿像和歌徹書記筆

補成範卿像

補集古十種肖像部云、藤原成範卿像神護寺藏

補倭錦云、隆信櫻町中納言高尾什物

補真賴曰、束帶の像あり、劔を帶とり博物館ふ

摸本あり、冷泉為恭のうつせりあり

補又曰、予此の繪像を一覽せし、み袿背み非櫻

補真賴曰、本朝畫  
圖目み此の像を  
鹿苑院殿の像と  
せり、つゝみん

町中納言改參議光能像と記せり

補重盛公像

補集古十種肖像部云、平重盛公像山城國神護寺藏

補倭錦云、隆信重盛公像高尾什物

補真賴曰、博物館み摸本あり、冷泉為恭のうつ

せるあり

補重家朝臣像 一幀

補摹本博物館みあり、御室粉本と記せり、畫工不

詳

補真賴曰、烏帽子狩衣を着たる像あり

補成道卿像

補古畫目錄云、大納言成道卿像

補真賴曰、此の圖所藏詳からば



重盛公像

山城國神護寺藏



補 島津忠久像

一幀

補 高山寺藏

補 真頼曰、絹本、みく烏帽子、水干、み行膝を着て、背み箭を負ひ、右手み扇をもち、左手を額上みかざし、よる跪居の像あり、畫上み日輪を忍ぶけ、繪の傍み記して云、く遺愚影守護北關とあり、殊勝のもれなり、寺傳よいそく遺愚影云云の七字ハ自書ありといへり

補 嶋津忠久像

補 薩摩國井上石見藏

補 久成曰、忠久の像原本所在詳からば井上石見がもてゐる、其の摸本あり

補 真頼曰、忠久童形、此座像あり、摸本博物館ふ



あり

補 島津龍伯法印像

補 京師大雲院藏

補 嶋津忠隆像 一幀

補 博物館藏絹本畫工不詳

補 真頼曰甲冑の上み袈裟をかけたる馬上の像あり畫上み僧雪岑の賛辭あり

真言七祖像 七幀

補 本朝畫圖品目云七祖像東寺什

補 東寺寶翰古器目錄云弘法大師真筆七祖師影七幅

寺社寶物展覧目錄東寺條云弘法大師木筆飛白梵漢題名并行草賛語有之七幅内金剛智不空善無

畏一行慧果五幅者唐筆之趣請來錄記之龍猛龍智二幅者歸朝之後大師補之由見諸家舊記

同書云唐人之畫於漢土も至て稀ふく賞玩目錄ふ載する外ハなきよしあるよし法きてハ五幅唐筆實以希代之珍跡也飛白之書和漢ともハ中古

斷絶の處是以空海題字相殘彼此不方名物どもや

弘賢按み大師の請來錄み此像のことを記して一鋪三幅といふ事誰も問ひても不知といふ真物を見るふ及く顯然より一鋪といふハ

一軸の事三幅といふ絹三幅を續する事也請來錄云李真等十餘人を雇ひて畫きたりと李真ハ

佩文齋書畫譜ハ京洛寺塔記を引て松福庫



院鬼子母貞元中李真畫往々得長史規矩把鏡者猶工資聖寺圓塔院李真畫四面花鳥疏致と記せり請來録より和尚告曰真言秘藏經流疏致隱密不假圖畫不能相傳則供奉丹青李真等十六人圖繪胎藏金剛界大曼荼羅等一十鋪と見返さるるに李真ハ青龍寺の繪所みや是等書畫譜の闕を補ふべし

道の幸同條云東寺へゆく先穀屋み入る坊官榎木大輔出逢次み大師堂み至りて寶物ともをみつ住侶文珠院出あふ帝の宸翰を初め弘法大師もろこしみ將來の七祖像み大師の飛白み書きし題名あり又小傳もあらず傳教大師へかくらさし消息もあり七祖のうち五祖ハ唐人の筆

元亨釋書卷一云空海在唐日慧果與金剛頂等諸密經并圖畫曼荼羅及諸道具又便召供奉画工李真等十餘人圖胎金諸曼荼羅一十鋪以付之約也

第一龍猛第二龍智ハ大師の筆とぞいふある將來録み供奉丹青李真等十餘人を喚て曼陀羅をとうつしと見返さるる此像もそれらの手して書しものみやおほくきまうせと少し残りたる筆のゆくへ宋よりこみのみけとハやうかもみていとたふとし又飛白ハかみこみハ絶みるものハかく傳みるものみとくみして點ハたぐみとみと宋の仁宗の時李唐卿といふもの三百點を作みて奉みるハ先み感みありとさみ清淨の二字をかみて賜みしさらみに其外の姿みをみけるみといふ事歸田録みみみるみが是ハ夫等みもみさみきだちて巧みかる點畫を結構みせらみぬるみハめづらみらみかりみともいハ



バカろのあや

本朝畫史云空海亦畫龍猛龍智金剛智不空善无  
畏一行慧果及自己像八圖今在京都東寺

躬行曰東寺の八祖像をみまがら空海僧都の  
自畫とせし例の畫史の疎漏あるべし

同模畫 七鋪

東寺御影堂内外陣具足目錄云八祖御影八鋪以  
寶藏七祖植尾淨寶坊模寫之文字畫工一筆也於  
大師御影者後宇多院摸七祖之趣被染宸筆元者  
寶皇寺安置有子細奉渡當寺了  
寺社寶物展閱目錄前同云七祖像寫七幅淨寶上  
人畫并題字甚殊勝也  
道の幸同云まゝ此像を淨寶上人の摹さきし七

幅あり題名ハあきども傳ハかし飛白もみごと  
ふてあ

補真賴曰道の幸の文ハ弘法大師將來の七祖  
の像のつゞき此文よて同じく東寺の寶物の  
うちふ淨寶上人の摹さきまゝあるといへ  
るまゝ普通拜見を希ふものみ此の模本を  
見せればとぞ

同八祖像 八鋪

真如親王筆每鋪有侍者及色紙形信貴山孫子寺  
藏  
畫巧便覽云真如親王号高岳王平城帝御子母者  
伊勢繼子師弘法貞觀三年入唐書畫學大師風格  
圖佛像多收高野山



本朝畫史云真如親王師弘法大師與真濟寫大師像

貫雄曰此八祖像鈴木真年摹本を藏す其本をみるに筆力不凡畫工の所為ふあらば

同 八鋪

東寺御影堂具足目錄云此内惠果弘法兩祖者融然律師寄進云云相傳云一說禎喜僧正筆以後說為正云云於自余祖師六鋪者良實法印奉圖繪寄進以寶藏祖師奉摸寫之繪師世号良三位

同 八鋪

寺社寶物展覧目錄云般若寺條云真言八祖像住吉法眼筆有色紙形題字

貫雄曰壬戌仲春こきを見る蓋應永時代中品

の畫住吉法眼ふあらば贊ハ世尊寺様の筆蹟あり

同 八鋪

同書高山寺條云八祖像訖間法眼之子惠日房成忍筆

補真言八祖像 八幀

補京師大通寺像畫工不詳摹本博物館ふあり

補真頼曰龍猛菩薩より弘法大師ふ至て每軸畫上ふ置色紙ありて小傳を記せり繪ハ甚見事あるものあり

慈恩大師像

寺社寶物展覧目錄藥師寺條云新羅慧基法師所授戒

明和尚有道風朝臣題字

躬行按ふ佛祖統記云慈恩大師唐高僧永淳元



年化法相宗開基也とあり。惠基ハ元亨釋書ニ  
行基學瑜伽唯識等論於新羅惠基と見えし  
バ行基より先輩あらん。行基ハ天平廿一  
年二月二日八十二化せり。戒明ハ藥師寺の僧  
釋書壹演傳ニ出く承和の中の人なまば年歷稍  
後まより道風朝臣ハ寛平延喜頃の人なまば  
世代いよき後まより蓋題字ハ後ふかけ  
ふやおぼつゝあし

性空上人像 一鋪

補權記云長保四年八月十八日自花山院有召參  
入有勅曰書寫聖形像令廣貴圖之近曾示中書大  
王聊記事旨可書之者奉仰退出云々九月七日書  
寫聖形像昨以則光朝臣令奉花山院今朝基賴朝

臣来示遲參之由然而令奏昨進上由了

元亨釋書性空傳云長保四年寛和上皇入山幸廬勅

延源關梨圖空像并記行業下彩筆時山動地振

古今著聞集卷十一云花山法皇書寫上人の徳を

たとび給ふあまの繪師を召具してかの山に登

らせ給ひて御對面の間ふ繪師といふことをバ

かくしと上人の形をよくみせて隱きて寫させ

らまよけり其時山ひびき地動きけまば法皇は

とろきおぼしめしとる御心を志す是ハ性空

の形をうけし給ふゆづらなる候なり候かりと

まをさまけまばいよき信心をこらせ給ひけ

りさて聖の御らほみいさゝあざのおもしろ

るを繪師みおとして書ざりけるをあらぬのふり



弘高長保頃行成  
御万壽四年十二月  
四日薨具平親王  
村上皇子寛弘六  
年七月十七日薨

けるさまふ筆をおとしかたうけるがそこふ  
しも筆おちておとつきたりするがあざふさ  
をばかむ侍けきバみな人ふしぎの事おあむ  
もへ了ける件の影いまよかの山に寶藏ふあり  
とある

本朝畫史云縁起云花山帝令繪所預巨勢廣貴畫  
上人像賛詞中務卿具平親王作書者行成卿也今  
存書寫山余拜之

倭錦云巨勢弘高性空上人像播州書寫山什物  
躬行曰朝野群載ふ書寫山上人傳花山法皇と  
て載ふるハ沙弥性空者東京人也父從四位下  
橘朝臣善根母源氏云々花山太上法皇去寛和  
二年微行見上人結縁畢爾來十七箇年長保四

年三月六日重結縁密命仙駕問上人行狀記之  
于時地震蓋是異相歟かくあてて畫像のこと  
ハ記さきば此像著聞集ふハ畫工の名をのせ  
ば釋書ふハ僧延源とあるを畫史等ふハ弘高  
とせりいづきは是あるをあらば  
補真頼曰花山天皇書寫山ふみゆきありて性  
空上人の像を忍んけんあさるにうつさあめ  
給ふふ山うごき地ふるふこと破硯草子ふも  
見ゆふ

釋阿像 一幀

倭錦云土佐廣周釋阿像和歌徹書記筆

補聖一國師像 一幀

補東福寺藏畫工不詳摹本博物館ふあり



補真賴曰半身の像かり

補指月和尚像

補新編鎌倉志卷三明月院寺宝條云指月和尚畫像一幅

贊曰虚空五彩畫雲端無相相還真相看應物現形

福源水指頭明月影圍々右前禪興明月堂指月

和尚肖像嫡弟仙溪首座繪之就于老衲需贊揚不

贅成天文龍集辛亥季春廿一日建長修幻道人釋

祖台書于聽松軒下

補俊乘坊重源像

補集古十種肖像部云俊乘坊重源像和泉國西福寺

藏

補士雲像 一幅

補同書云士雲の像鎌倉圓覺寺傳宗庵藏

補新編鎌倉志卷三傳宗庵條下云南山和尚諱士雲嗣

法聖一建武三年十月七日寂崇壽寺ノ開山ナリ

又同書條同云南山自贊畫像壹幅贊文如左者箇面

背太奇怪矣你是阿誰我不知你喚作南山不是不

是鑑公太守所寫影像携来求贊トアリ是崇福寺

開山也鑑公ハ平高時ナリ

補正法國師像 一幀

補所藏者不詳畫工不詳摹本博物館ふあり巨幅

あり記して云祐清所持の繪本を摹き

補真賴曰右手ふ拂子をもち倚子よろゝき

像あり但正法國師ハ泉涌寺俊仍あり

補慈覺大師像 一幀

補二尊教院藏絹本畫工不詳摹本博物館ふあり



補真賴曰、倚子み座せる像か、畫上み置色紙  
あ、體性毗盧居極理示頓覺の語を題せり

補聖寶僧正像

補東寺寶翰古器目錄云、聖寶尊師自畫讚

補同 一幀

補仁和寺御室藏、畫工不詳、摹本博物館ふあり

補真賴曰、右手み三鈷をもち、左手に袈裟の端  
をもち、倚子み座せる像あり、畫上み小傳を記  
せり

補聖寶僧正源仁少僧都益信僧正像

補柏木貨一郎藏寺藏高山玄證□□筆

補真賴曰、此の圖摸本みく傳ハきり玄證の摸  
せりものみく白描此座像あり

補慈榮大姉像

補天陰語錄贊部春吉祥廷瑞禪師發越入京居無何  
聞阿母訃音不勝追慕哀慟之至、暗自寫真令畫工  
描之、命余題其上云云

補慈惠大師像

補親長卿記云、文明十三年六月三日、叅詣八部元  
三大師御自筆御影也、今開之岩井坊為案内者同導

補真賴曰、慈惠大師名ハ良源といふまゝ、元三  
大師と稱をく、部元三大師の條を見合をべ  
し

補同

補天聽集云、天文四年八月七日、廬山寺靈寶種々  
帥大納言持叅也、天神自筆之影、又慈惠大師自筆



影同御念珠法然念珠良忍上人念珠廣慧和尚山廬  
寺之開後醍醐院之御寄倚ト云云

補同

補集古十種肖像部慈惠大師像千手山弘法寺藏

補真賴曰閉目の像あり弘法寺ハ備前國あり

といへり

補親鸞上人像 一幀

補東本願寺藏自畫摹本博物館ふあり巨幅あり

補真賴曰この像もと上野國厩橋妙安寺の藏  
あり文庫摸本ふ本多正信の書翰を記す文ふ  
云本願寺御取立ニ付貴寺安置有之候親鸞聖  
人自作御影門跡御所望之處可被指進由内府  
殿御喜悅被思召候弥早速可遣進之旨今度以

御使被仰遣候依之御紋幕被遣自今御紋被下  
之候勝手可被相用候依執達如件慶長七年三  
月九日本多佐渡守花押上野國厩橋妙安寺御  
房と見返す

補松源禪師像

補東海一休和尚年譜云文明元年師年七十六歲夏讚

松源禪師畫者墨谿云々

補慈眼大師像 一幀

補寛永寺藏畫工不詳摹本博物館ふあり

補真賴曰右手に中啓を持左手に珠數をもて  
了座像あり

補同 一幀

補所藏者不詳畫工不詳絹本摹本博物館ふあり



補真頼曰。右手に珠數を持。左手に獨鈷をもち  
倚子に坐せる像あり。畫上は良恕法親王の贊  
辭あり。



